



東都繁季記

秋

四

۳۶

3375

4

JAPAN

10

1

門號  
3375  
4

秋

秋滿呂川十二桟東方年驕

秋銀鶴清歌一闋人如月笑

指滄波洗玉盤徂徠

稻田天馬圖書館  
253.1

江戸歳事記卷之三秋之部

七月

固香堂

固香堂

同上

朝日○本所羅漢禪寺施餓鬼今日より晦日迄修行

毎日羅漢供養  
西蘭金經讀誦

十六日廿八日晦日大せがき修行川せがまへ今午修行中回方のた俗群多

○水道橋三條橋為社より施齋の神葉切をもとま八月二の午の件あり

○因不動より南中路八幡宮靈家出拂矣說法源賴義翁高ハ懐文作像以我家

約はく儀ゆ人の狀あり

二日○煤拂出拂今日より十三日までの間晴天と擇ひ屋中の煤を拂ひ又移書衣類

置めあるの出拂とて高あゆき家の布と幕と張りて高ひりのとて院乃交割

神社の美室曝

日限大き定り有て内拂とゆす

四日○本所圓向院より子住小柄系の別院小於て大施餓鬼修行

刑死の族迷惑脱の事よりふとあり

現吾堂集

あきらかにしたのをくへよまくひはしほおち入る人一人もなき

吉川惟足

六日○今朝未のうち毎家庭より短冊竹をすすめ勢く市中ふ工とてそろいの

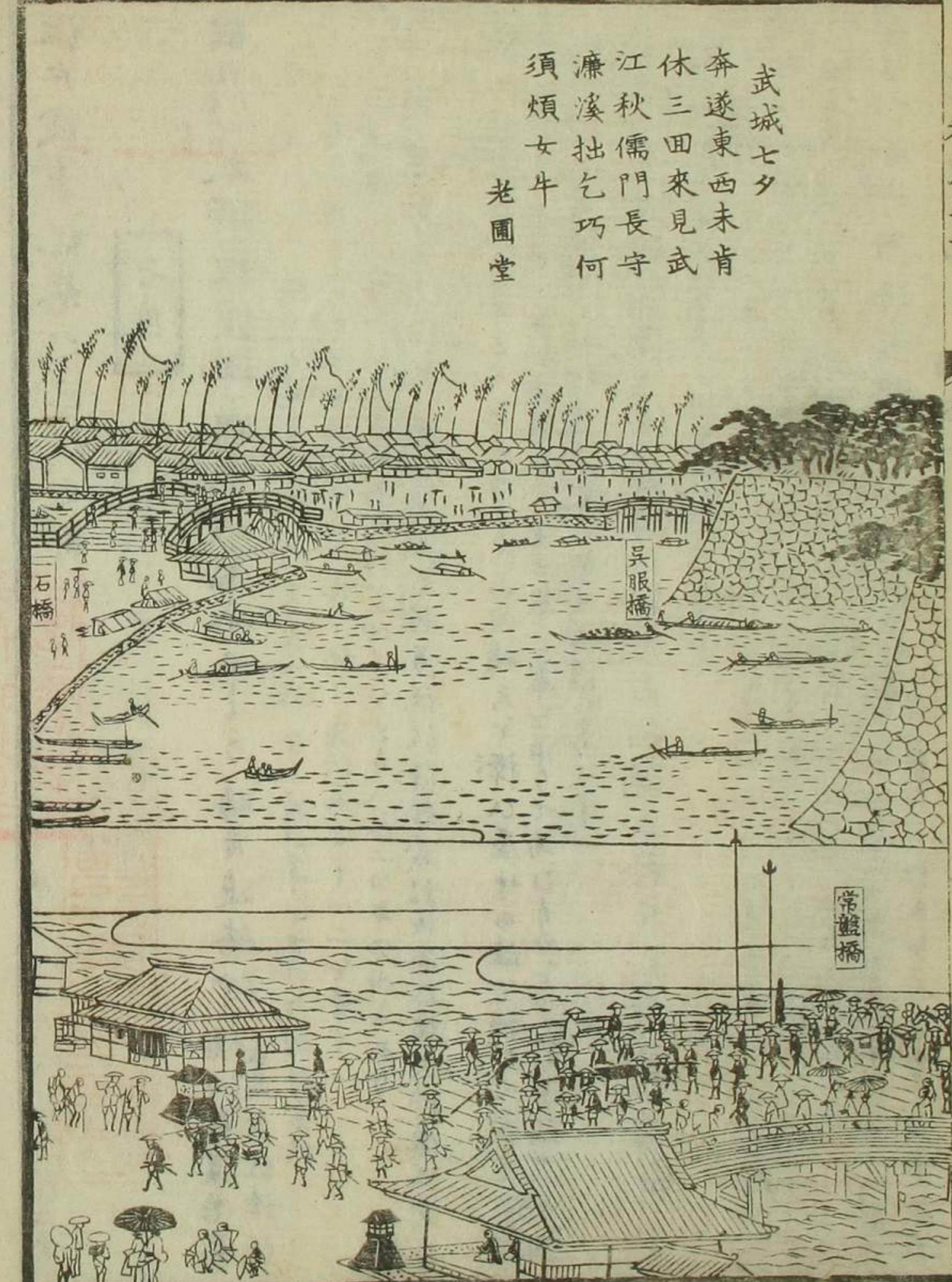
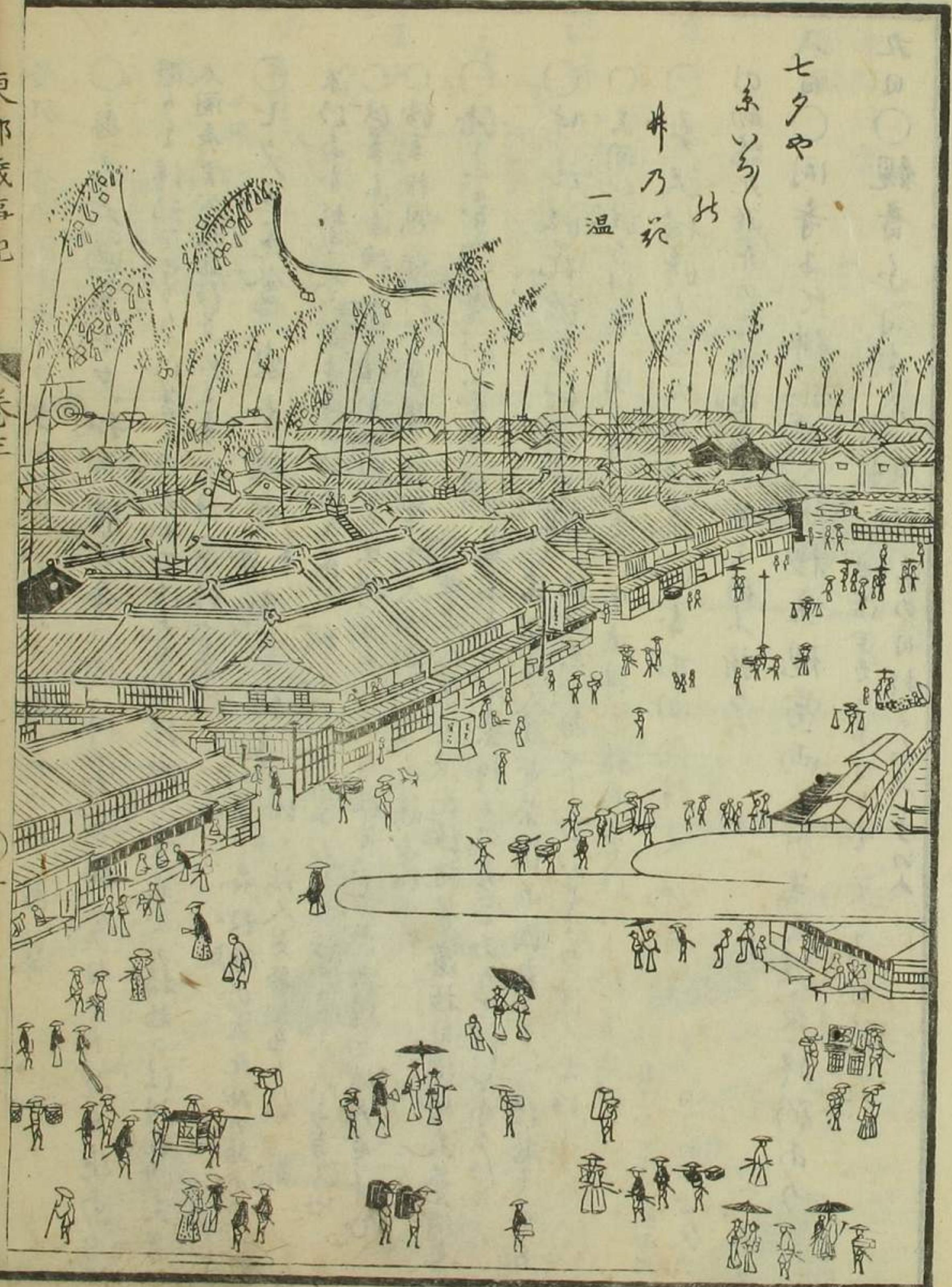
作りあつて木とくもよ高く出でて人の足のとくもくと年のかうハ

七日○七夕御祝経諸侯白帷ふとて御礼 今朝を終はれとくほて二里

付一宿おとく家に來索麁成

東邦歳事記

卷三



答ひ○吉原遊女者と夕笛とかいへら後やほの頃の隠の隠ひ隈詠

○應戸天滿宮七夕和が連が會。同神宝法拂今日より九日迄あり  
隈りは御代と申すに義公の天水の御太刀管御拂を筆義公の御拂。法性坊津吉善  
太閤秀吉公持高綱の文書あ種の御宝あり

○七夕立花會 東本願寺 沙門西本願寺 地法人見物とあり

東故あ本願寺又六角寺の坊の立花も牛久也と名向るなり

○法華本願寺中徳本願寺の立花も牛久也と名向るなり

○沙茶報恩寺什宝法拂 観音上人圓圓の發表謹此

○池上本門寺什宝法拂 日蓮上人筆源法花經同筆遣拂同源同筆消

○中山法花經も什宝法拂 宗祖上人筆曼荼羅并消島上人の持物との外  
法付墨と相手しより清人も有

○吉圓弘法も什宝 法不思議も什宝法拂○難陀ヶ谷法門も什宝法拂

○奥沢村淨志も九品佛奈○本西圓向院大施威鬼

明治二年丁酉正月十八日十九日宿大

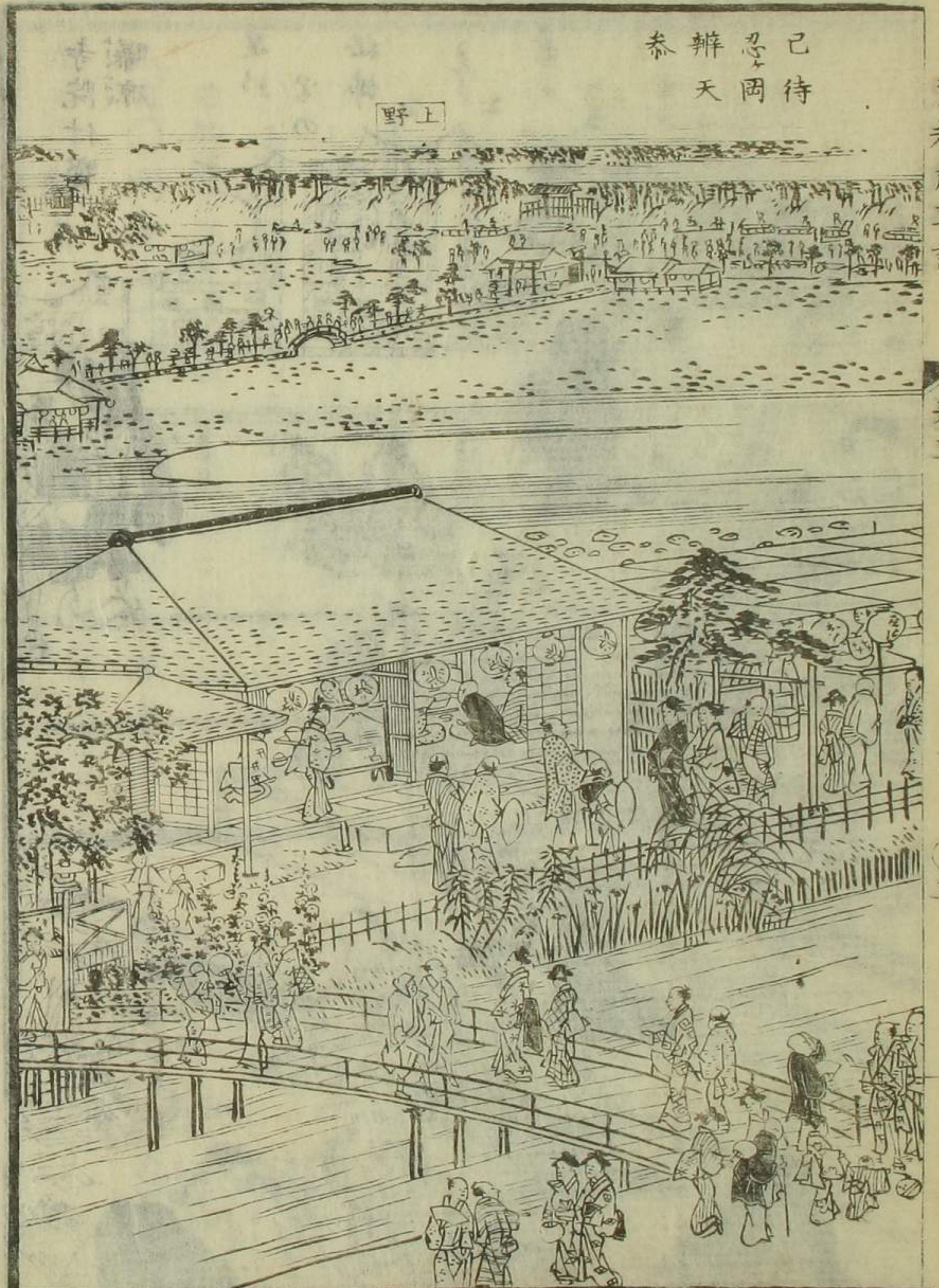
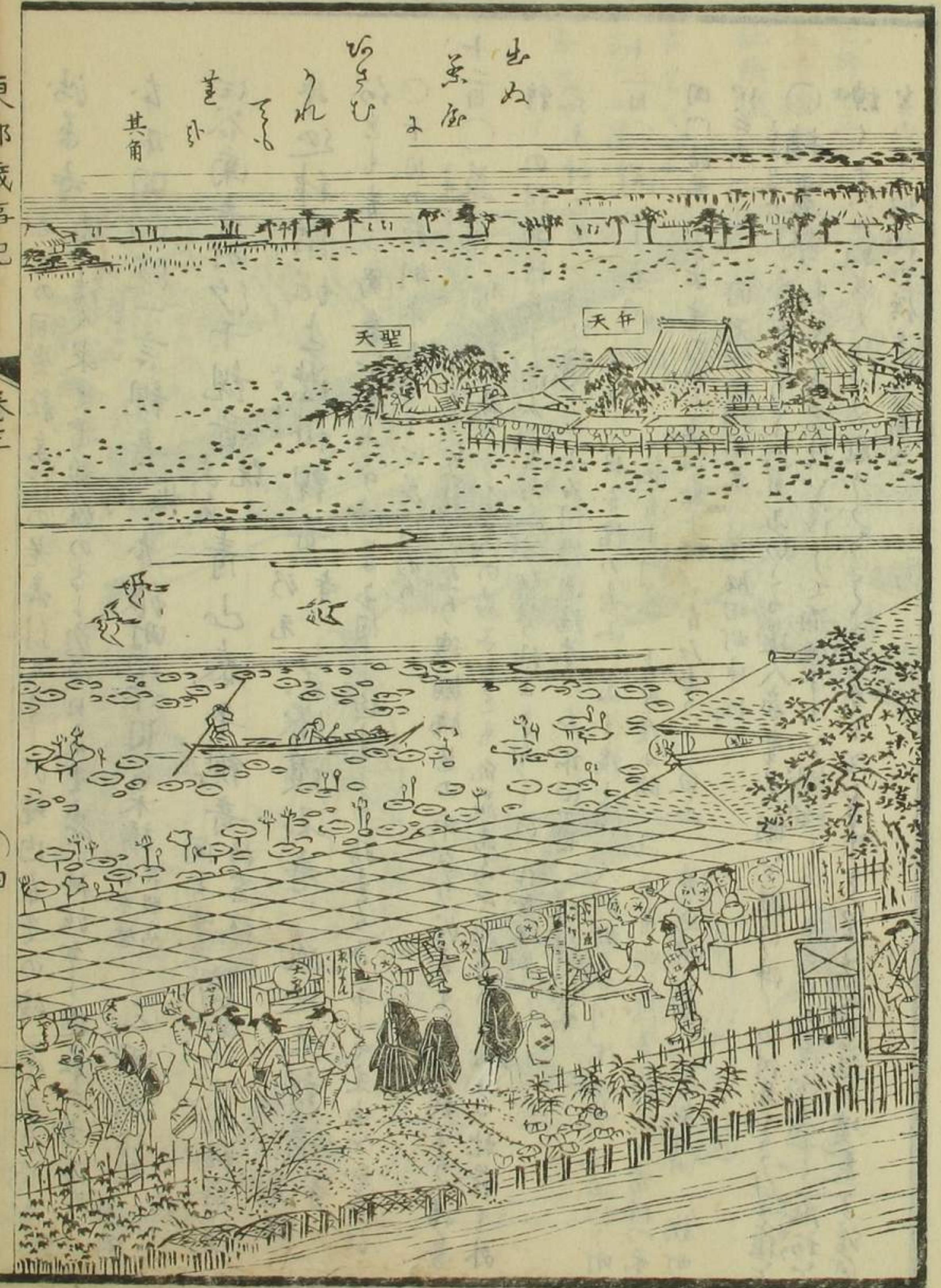
の初焼死溺死の亡魂追薦の為よびよ所

八日○同寺より佛向施入の檀主現當兩益の為よ法事修了あり

九日○觀音寺日系今明日 世信是万六小日とも之の日経つ

おの日教よ向ひとひ





油茶寺 五月の間夏秋氣候の老若引もさへ境内本堂の傍まであき蜀黍と南へ行人求て雷難除のちくに今日本堂にて修法事通報の者多

本布田向院一言觀音

用ヒトコト

帳 本波町四丁目 日本橋白木屋吳服店

三田魚籃 淀内

四谷南寺町江干親音院

完成用

青山奉平觀音 梅窓院 鰐町八丁目櫻岩院

牛込神樂坂上懸掛觀音

元大塚護玉寺 納込大觀音寺

行者も赤き蜀黍と高より油茶まつ角

近來より始まるやうて本由を知り

○十月の粧例年あるべからずあり

一百〇草市 又孟布とひの精良なり魂棚飾めの市なり行者も却の刻より始る

種の供物供花木商より草市やうむら油又きりくは作者不知

吉原仲の町 淀川橋下 小石川橋通院前 本布田四丁目 根津門本

十三日 同市立川

同一 日本橋の南北 あ玉度小路 人形町 今川橋の水 稲田町

同門跡前 本布中の石 淀川橋下町 本ノ子町 白山 牛込通町 布谷谷町 鰐町

四谷御門外 同天王羅刹前 先坂田町中坂

○精靈祭 今日より十六日あひのうち近人亦聖天棚と懸け件の供物まづ先祖とまづうの写真を拂して通經すると棚経より二十三日の夜迄火と麻糬と

燎く十六日約送火とて又麻糬とてこの房と供事中より法人多從の墳墓を修め

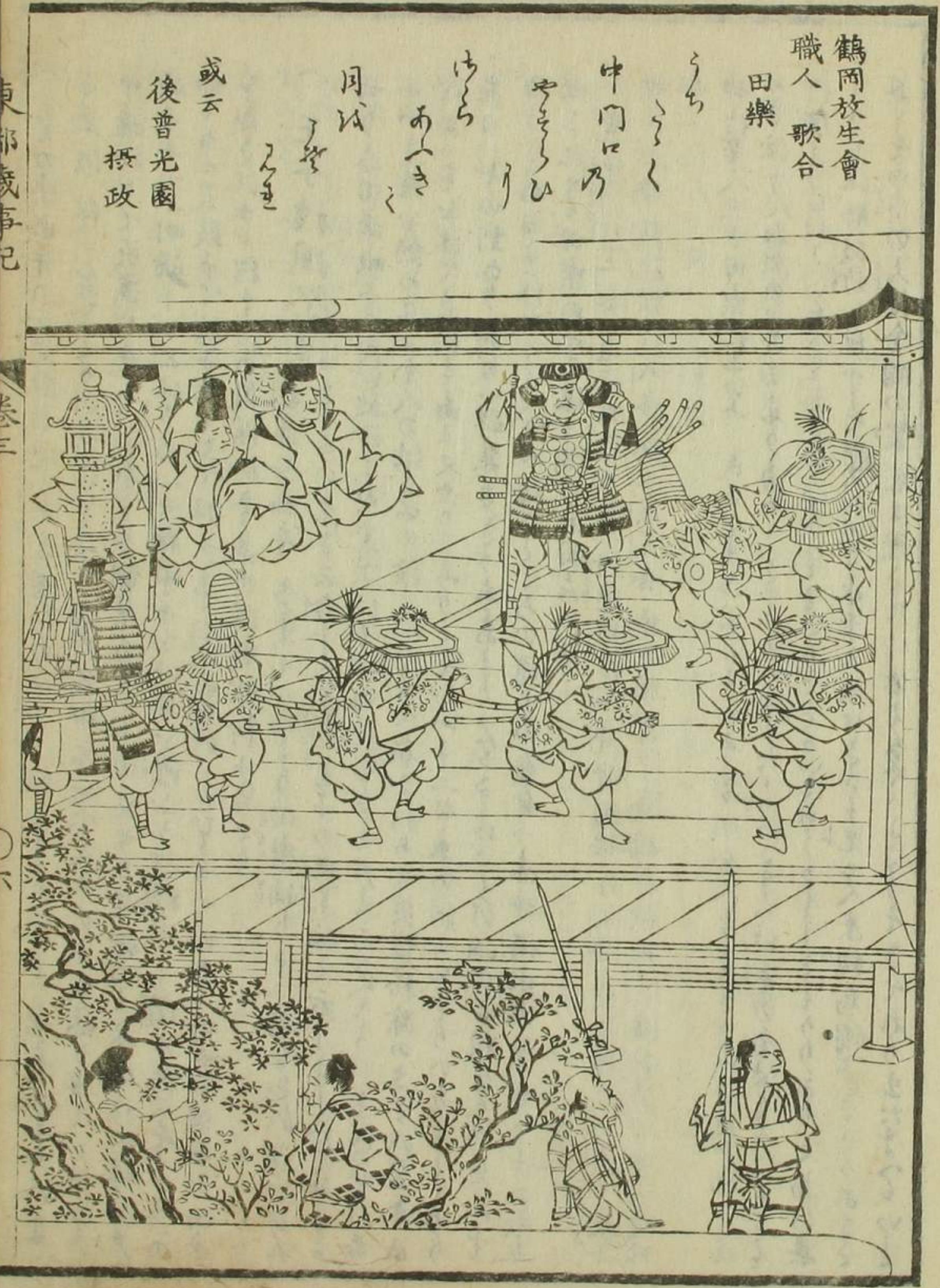
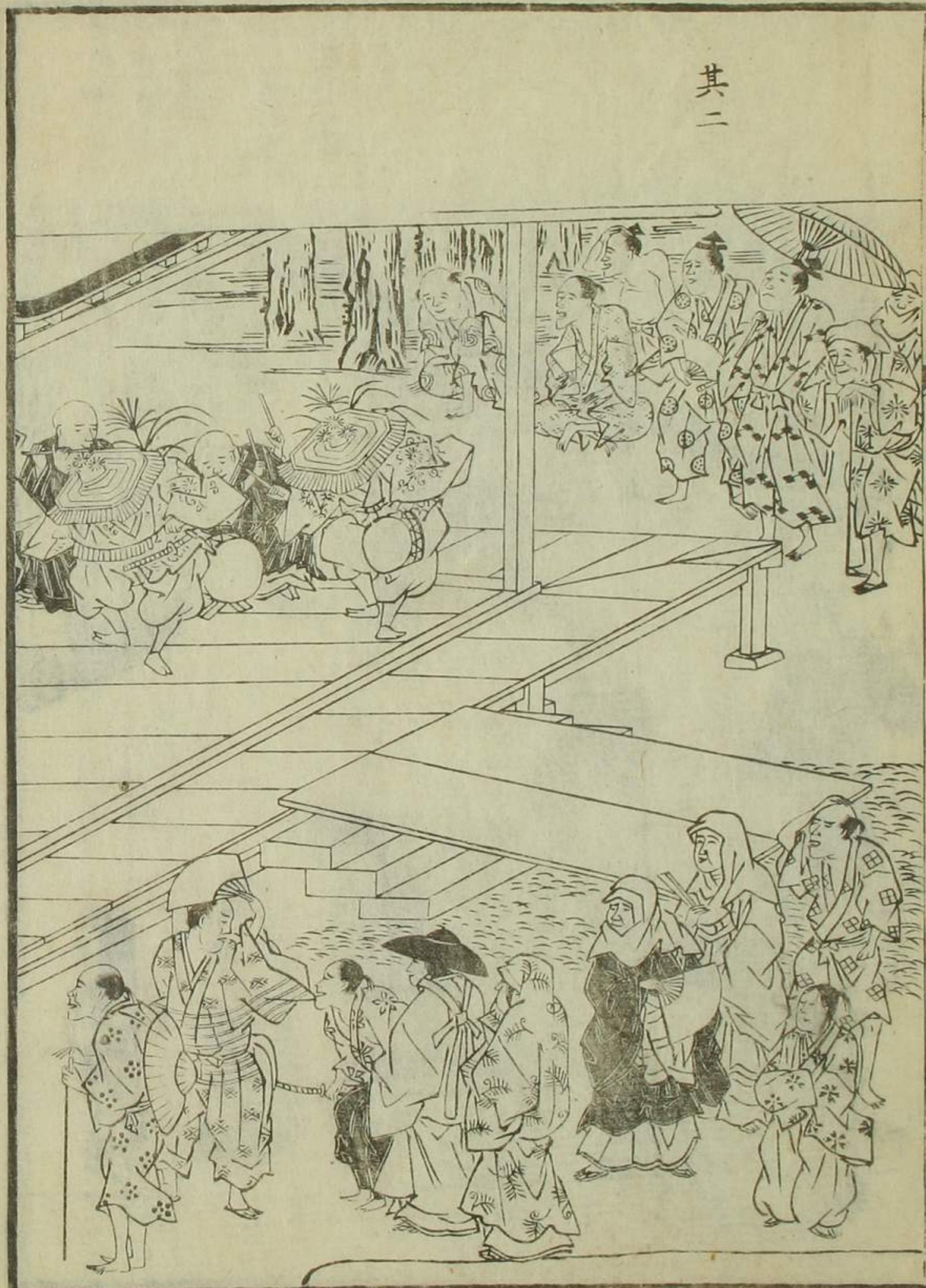
室の中挖松の傍多く来る

七月十三日  
王子權現  
社祭禮

古事と以て  
ありふ模一  
出せり



其二



或云  
後普光園  
攝政

鶴岡放生會  
職人 歌合  
田樂

中門口乃

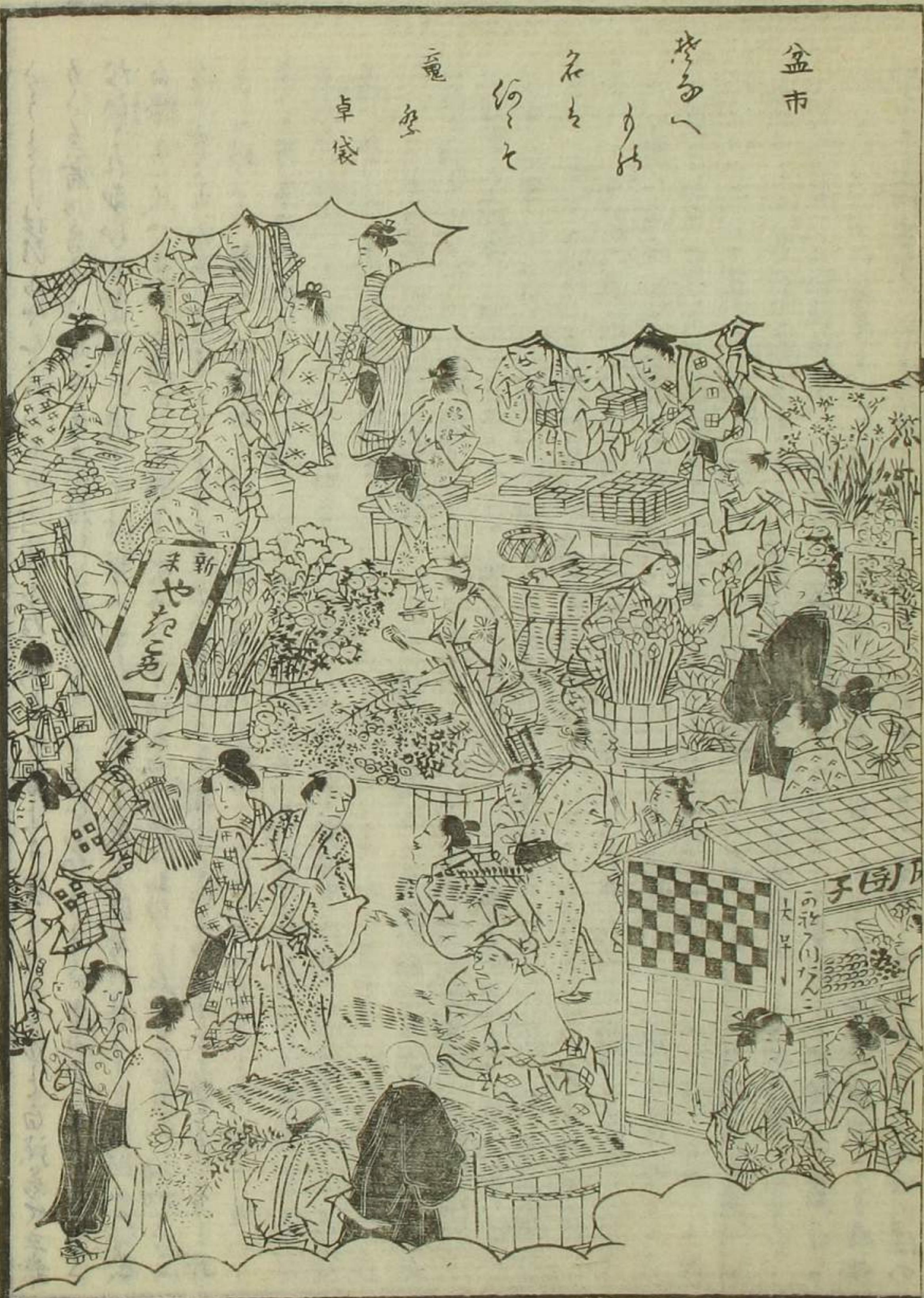
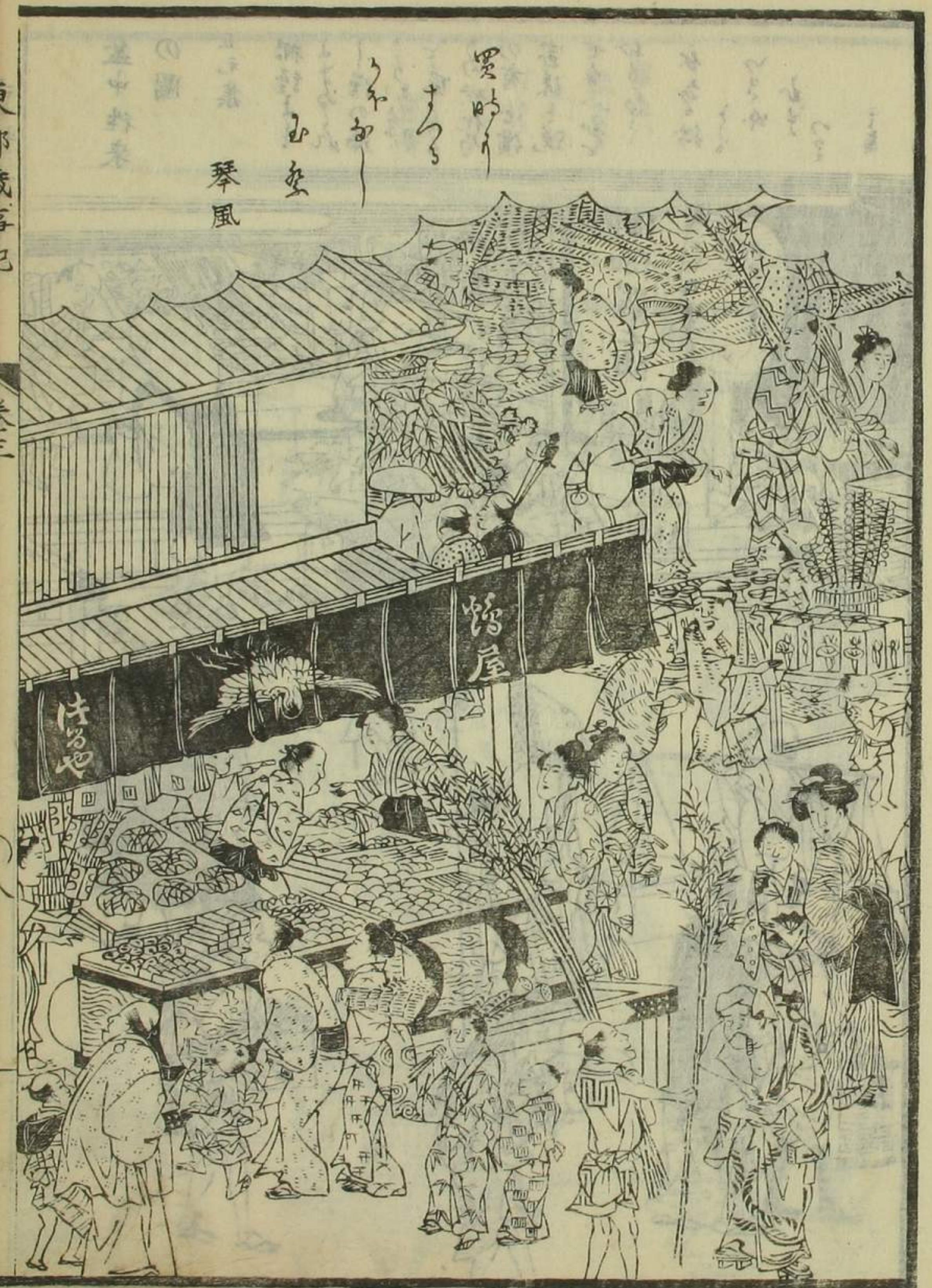
やまく

月代

ふき

○ まつのは市井の女兒御ニ速リてお廻ひあらるゝ事無よりびす。唱寄るあるくによ  
こえは仰一室をとりの余風をうべ。江戸名勝志延宝六年のと徳の件。七月江戸  
中踊初りて女衆を多し。又より制禁あり。由記せり。享保二十年閑散の縫合  
砂子小云小町踊十二ニ以下の小女腰革サリ。おもと襟やうけ縷ト。腰を鼓ト。うちの  
如くうる太鼓少て拍子どよりて。風ふとくわくわくむりて。りあらひかり男やまゆ  
をあさげ云。絃を以ての風俗柳亭某の還魂紙料ゆく  
○ 王子禮現祭禮 別當金輪寺 ちゆ十二坊より田樂踊タガクト。十二番と申ばし。後小びん  
すり太田南畠子の武江被沙。典葉タケイ。一玉子の典葉タケイ。踊と云。江戸砂ふよ  
ふ小き捨と納め。余人の納ふ。の捨とあらうて。取め。收め火薬。鹽。糸除のち。翌年は  
捨よ一本と添て。を納め。又やり。また。十二日未の刻。よどどりのち。あり。  
當日ハ午の刻。うり。當日ハ群集。まき。かね。あら。と。江戸の古雅。うら。眞ん。ま  
うら。うらの用。よ。説へ。今日掛るところの躍りの番付。赤井。得水。の筆。あり。その次を  
次上記せる田樂の記。いは。踊の名目。左の如

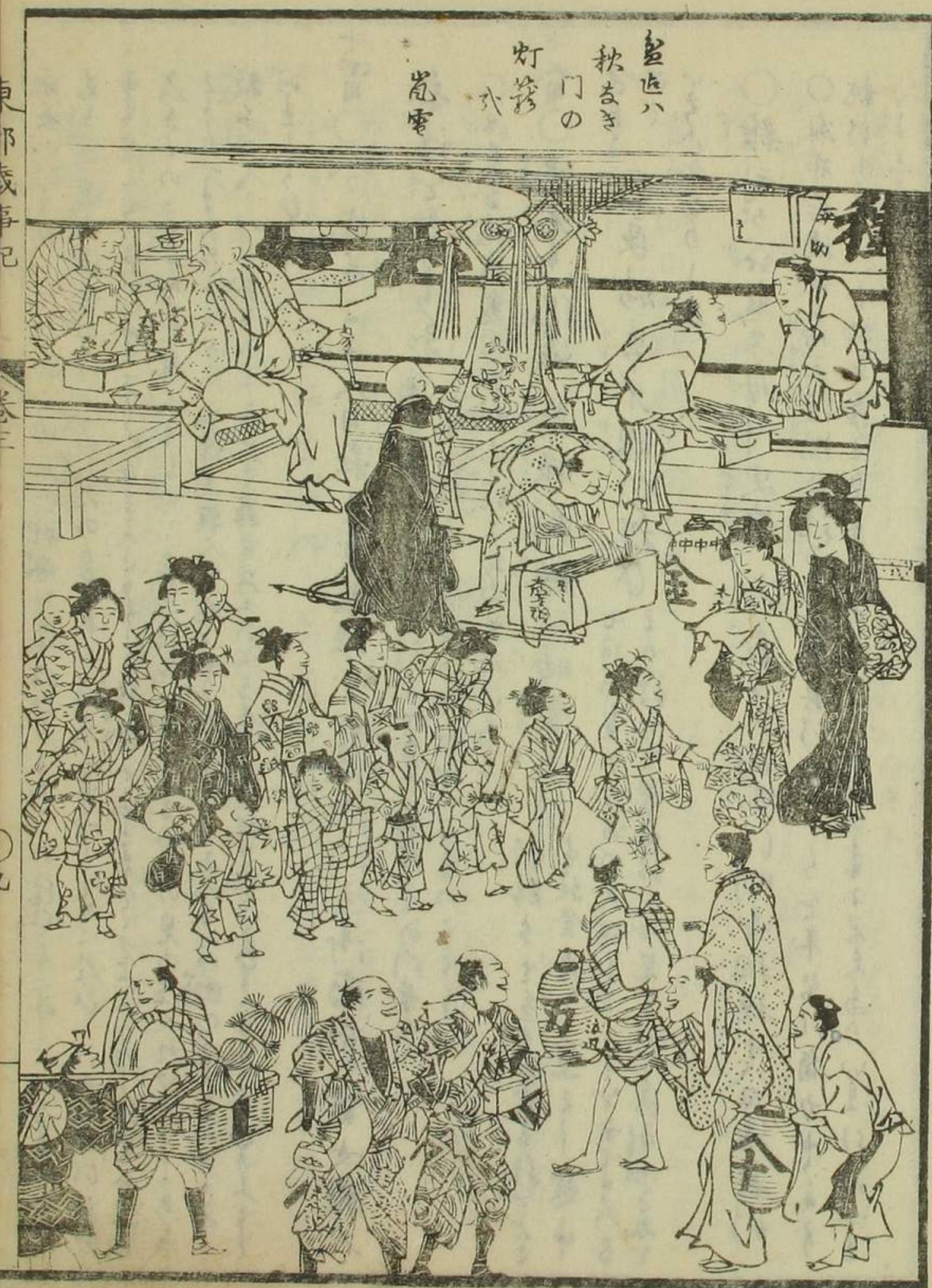
一一番 中門に二番 道行腰斧 三番 行違腰斧 四番 背摺腰斧 五番 中辰腰斧 六番 三柏子  
腰斧 七番 然礼腰斧 八番 捻三度 九番 中立腰斧 十番 捣斧腰斧 十一度 十一番 笹流 十二番 子魔鬼  
以上



盆中往来  
の圖

五元集

棚経より  
よきあれ  
し後の袖  
と成り得  
うの候化局  
の有を價  
密謀と説  
せす。を起  
おりり、  
衣を継  
つまゆ  
ふま  
つま



冒 ○ 今夜暮よ十人目者よ睡 無眼堂の後御門主御座西へ男女雜人  
參詣とあらゆる 圓上刻より成上刻まであり無眼堂の門参く  
三十六坊より勅燈の拂灯出で白毫のこゑ

十月○仲元節祝儀 荷版 刺鰯と時食としも越中  
あまよ イキミタマ 魂の鬼ト 七月の鬼ふ亡者の冥魂あるよりと云てやうる

いぢくをかりとす  
○雜司ヶ谷鬼子母神更衣  
今朝より同而法明寺相模十八日迄其行

○麻布長福寺<sup>ルウツウジ</sup>五種觀多九<sup>クモウ</sup>也。お樸<sup>ハラカ</sup>無<sup>ナシ</sup>有<sup>リ</sup>。年多九<sup>クモウ</sup>角力<sup>コツリ</sup>也。有<sup>リ</sup>。執<sup>ハサウ</sup>事<sup>ハシマ</sup>也。○小柄原<sup>コハラハラ</sup>御<sup>ミタマ</sup>主<sup>シメ</sup>也。角力<sup>コツリ</sup>也。有<sup>リ</sup>。若板<sup>ハシマ</sup>の事<sup>ハシマ</sup>也。有<sup>リ</sup>。足<sup>ハシマ</sup>也。紅乃雪<sup>レバノキ</sup>也。

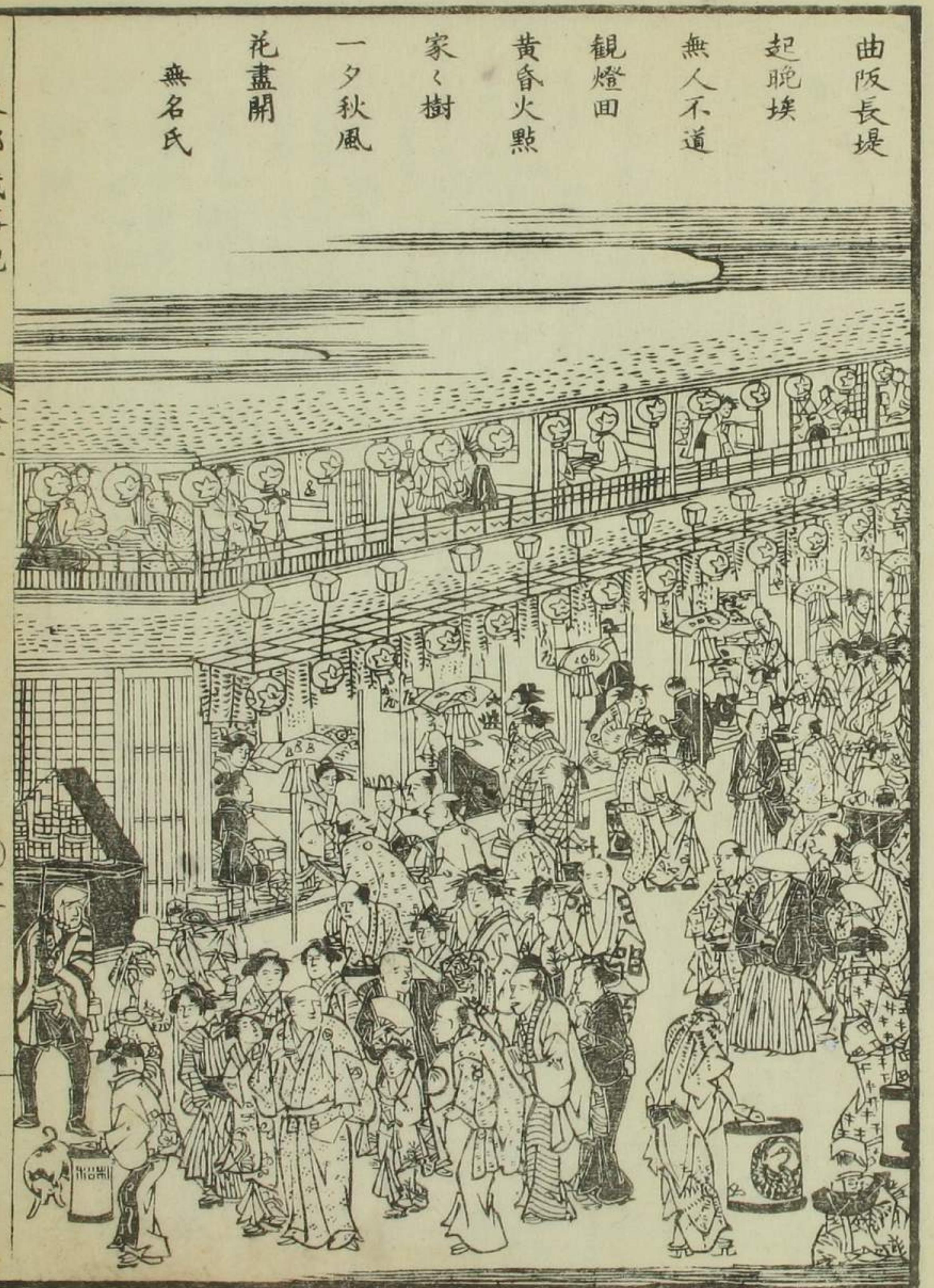
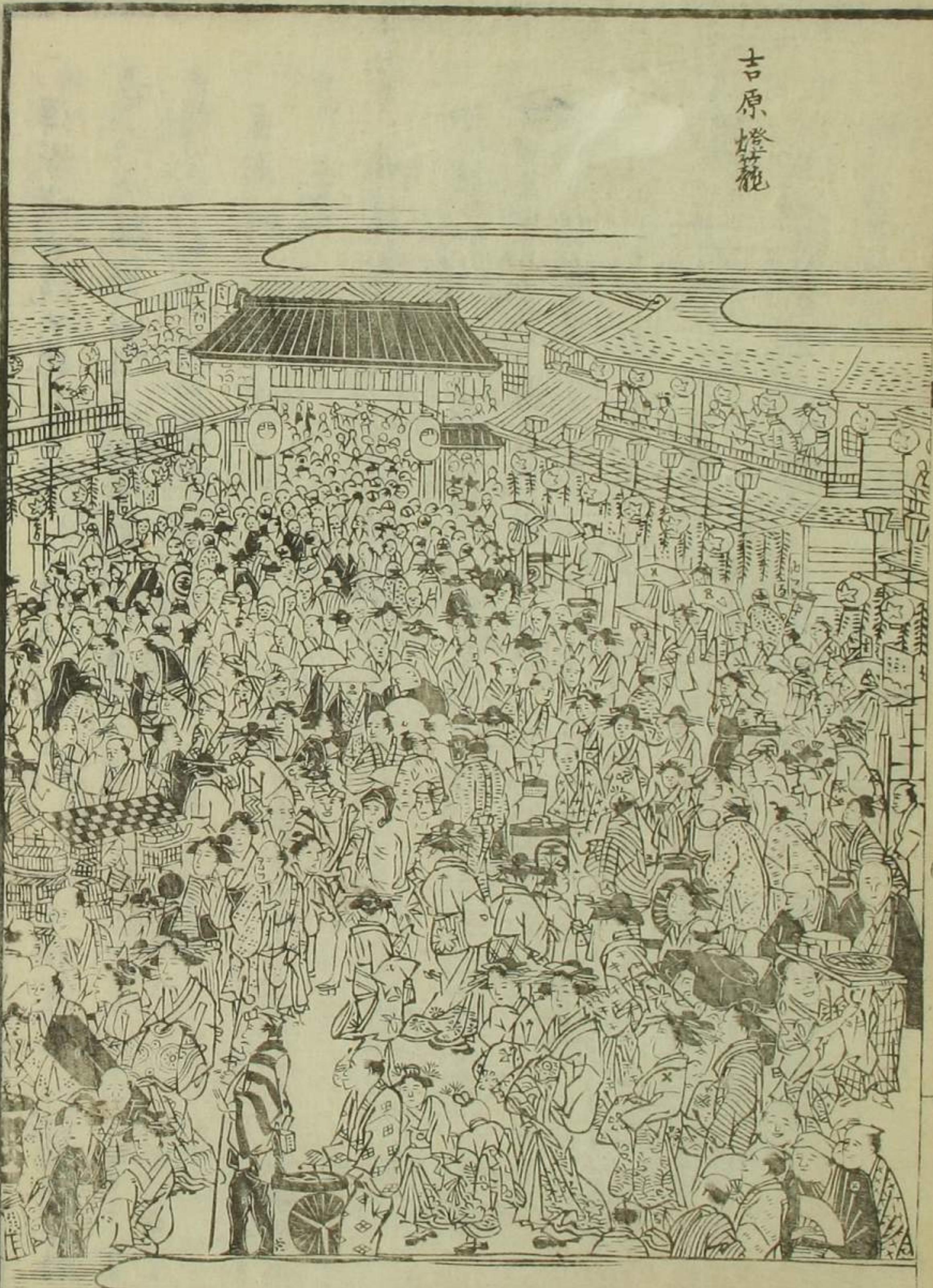
○禪家諸寺院大施威鬼修<sup>ノ</sup>  
牛馬<sup>ノ</sup>禍<sup>ノ</sup>也。白金鴨壁<sup>ノ</sup>也。下濱<sup>ノ</sup>長<sup>ノ</sup>也。  
青<sup>ノ</sup>海老<sup>ノ</sup>也。小門東海寺<sup>ノ</sup>也。今日<sup>ノ</sup>暮<sup>ノ</sup>十六日。  
同南齋場<sup>ノ</sup>大龍寺<sup>ノ</sup>也。八日十五日。  
み縁<sup>ノ</sup>也。高相町<sup>ノ</sup>阿<sup>ノ</sup>木<sup>ノ</sup>施威鬼<sup>ノ</sup>今<sup>ノ</sup>日<sup>ノ</sup>暮<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>小修<sup>ノ</sup>也。  
但<sup>一</sup>南門毎日<sup>ノ</sup>おも<sup>ノ</sup>の燈籠<sup>ノ</sup>と拂<sup>リ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>も。さて<sup>一</sup>かく<sup>ノ</sup>おも<sup>ノ</sup>の燈籠<sup>ノ</sup>と拂<sup>リ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>也。一際<sup>ノ</sup>見<sup>リ</sup>ふ  
ふ拂<sup>リ</sup>あり。

○東叡山 榆葉も  
躋らく 墓上も  
法華寺山門を隔てて登樓する如

高麗奴婢の數入西月十六日み回くを人の曉とひて隨處ふ逍遙を  
○今日より廿二日迄本不押上最教寺は拂ふて曰蓮上人筆譜  
曼

○小向龍興寺の百羅漢の懸物と掛る  
蒙古の夷城退ひり一多きり 境内七面坐ぶ掛て龕也  
名筆華画西界もんざつ

吉原燈籠



曲阪長堤

起晚埃

無人不道

觀燈回

黃昏火點

家々樹

一夕秋風

花盡開

無名氏

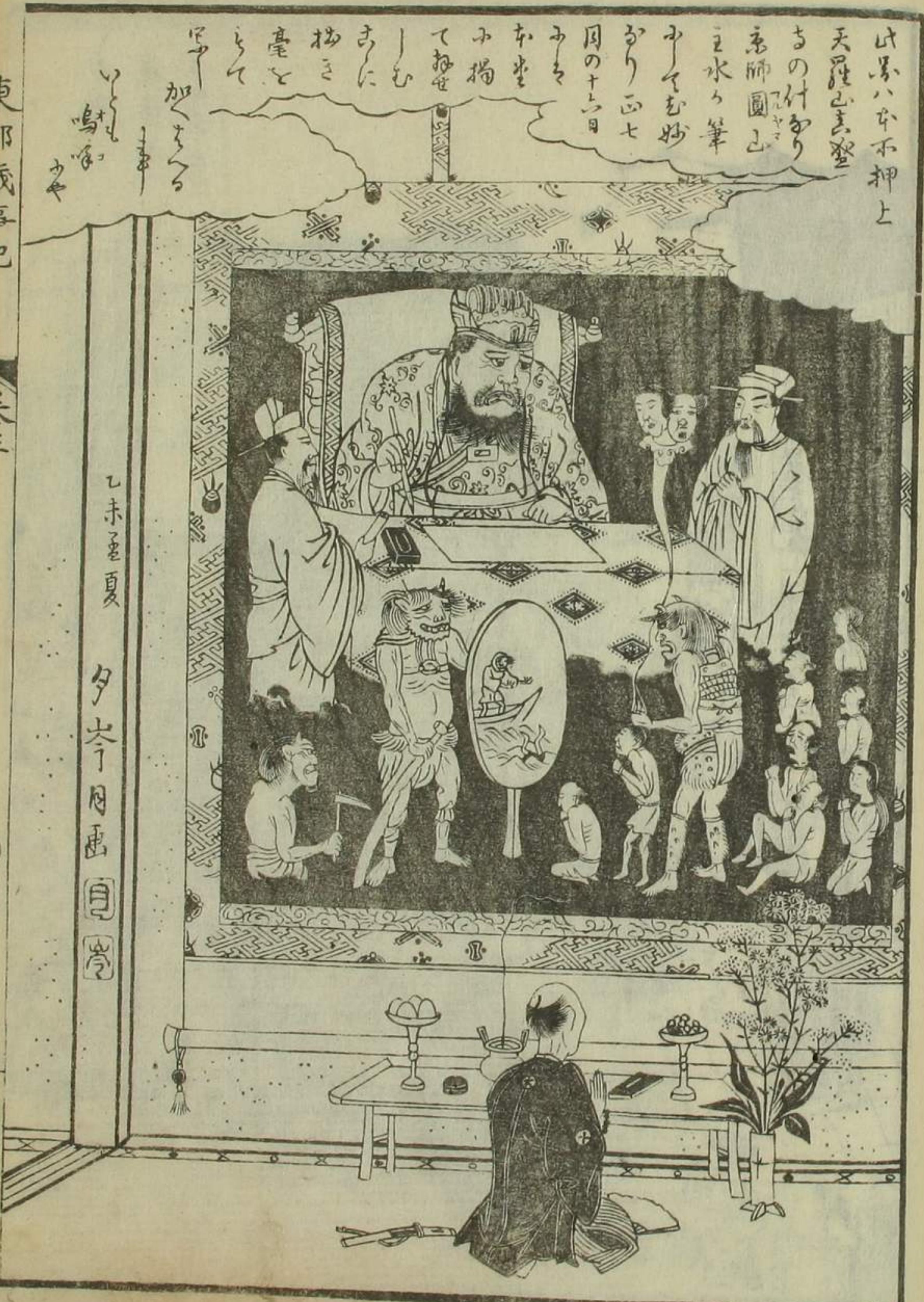
○同麟祥院誕二位春日局影像と年せしむ正月十六日のこと

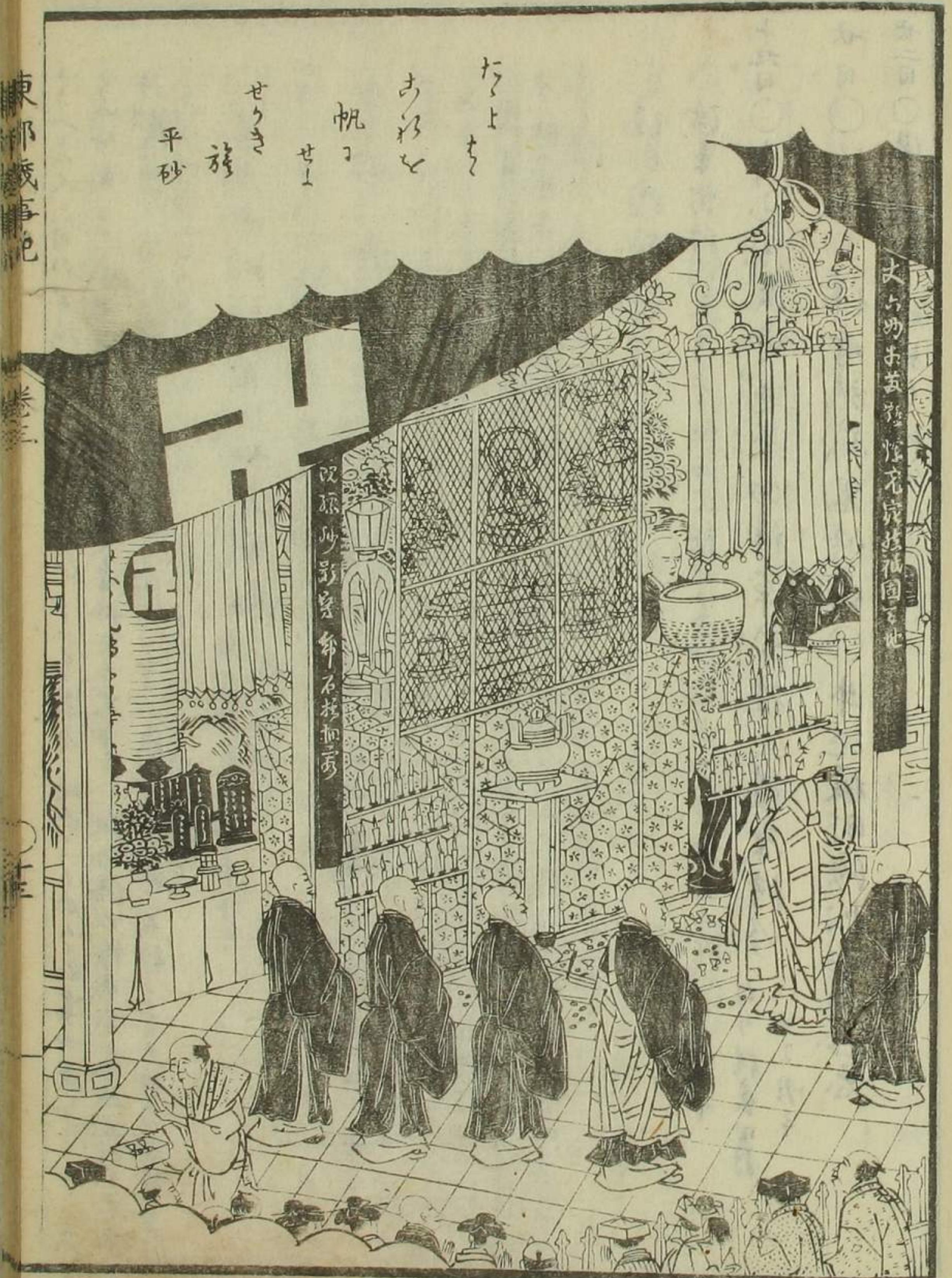
○源川寺町油絵も施餓鬼○小橋方舟も法拂御師と号の野口本と也

○川に長光寺河を閑帳

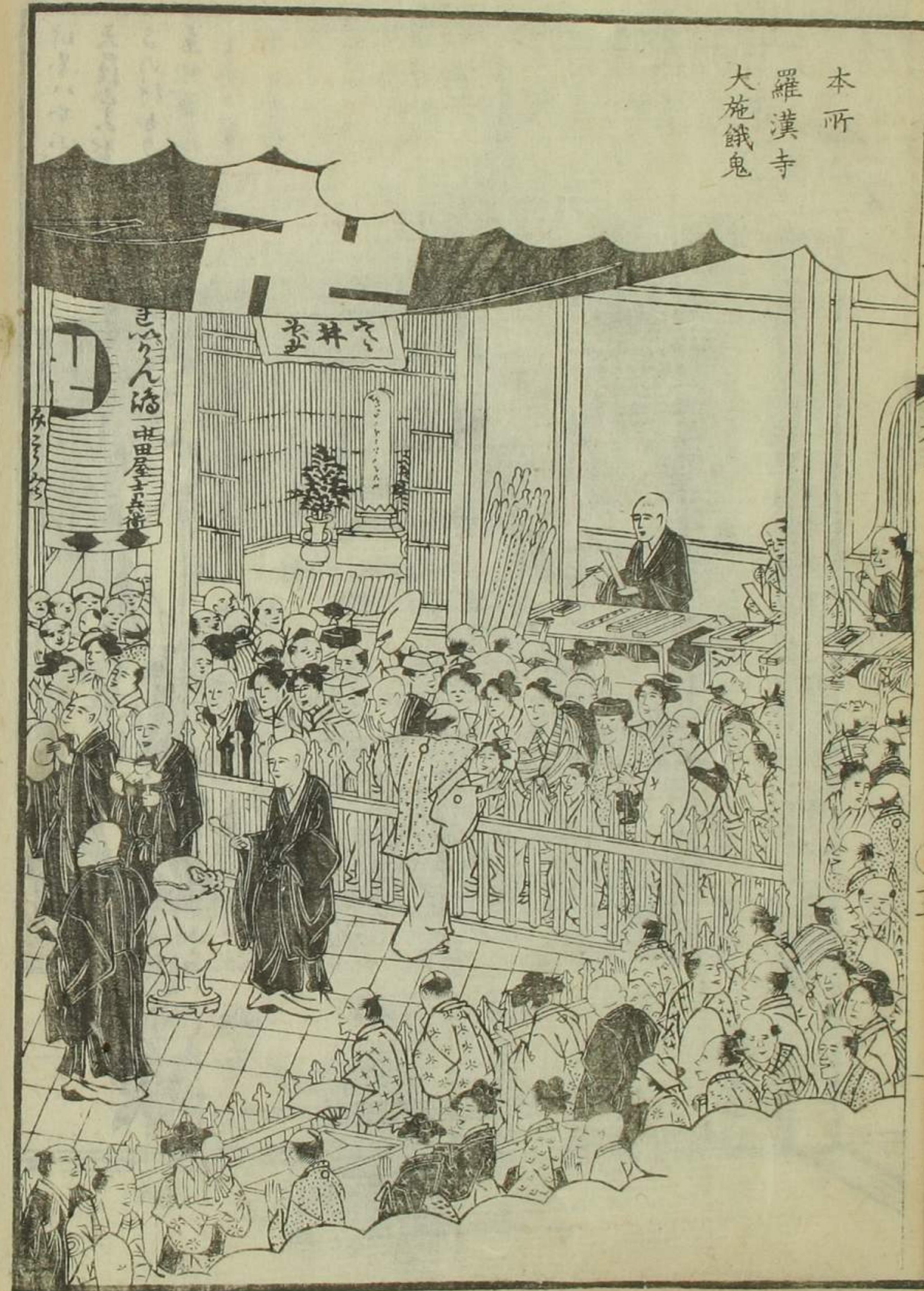
○同惠祐天寺本陀經子跡廿八日近修行 音樂樂あり乃毎日毎小舞集  
用山祐天大悟正八十二才等身の高絵本。同八十二才高絵画。同  
同遠骨舍利。同舌根。銀輪七太刀身代名号。狼牙蘆の名号。火牛出現の名号。胞瘡  
名号。大車多觀名号。火防也。用山三十才累女海波の名号。圓山累海波の如法衣也。  
象裝法服。伏派無縫本。般淨天皇御御所御法如來。叶ね姪感源院如來。聖徒老子  
出等名号。暖滅光佛聖祐老子自慈乃舍利。雲城院法如來。恵峯禪師者號。圓  
光大師御自從高軒。同輩紺紙令泥十念名号。一枚起達文殊菩薩光上人等。同山老校  
の像。赤天像。蜀紅錦九象裝法服。藕系入束裝法服。玄宗皇帝観音菩薩の像。用山本地  
地善言の像。至外佛画佛像の類多

○要汎村淨真寺佛 什寶坐排十八日まで解とゆるに 五宝を多  
紀を普く世人の知りてなり。芝枯大名号。中九尺本サ十二尺。聖徒太子本サ等名号。以  
法大師等名号。同輩金泥光明名号。若尊大師等名号。叶ね姪化蓮本名号。圓華  
稱讚淨土經。文覺筆般若心經。圓山杖。咸陽宮兔観。光明外縫。河憶上人等二河  
白石の像。同輩若尊大師以形。同輩圓光大師以形。淨庵和尚等謹。九品淨土大  
曼荼羅。河憶上人等名号。圓光大師等名号。亡者の文某度の家士堤劫集  
が先妻の死是後妻とかやまへと生へ同藩若奈某處寺用山河頃上人よ渴して化度を





本所  
羅漢寺  
大施餓鬼



とへ上人二日の宮施餓鬼とひひひよを私今近多りのうな妻女等ととりく思  
ふと免るとぬひく若奈某へ書跡せり文あり。血の油の帷ふ本芝林本町の商家  
も相處其の妻経度多く死一からう因一上人の惡化すりて成はしの惟子成残せり  
とくに同二日の余りふり

○吉永京町二丁目旭如東開帳 旭丸店あらわまはせ

十七日○本丘六丁目森福ち施餓鬼

アサヒ

多店かわ

十八日○塔と寺岡山忌 四山開會上人聖慈大和尚の忌より法延と役らき  
方丈より列と掛へく本堂へ出仕を程かく用ひ坐り開山と人の本像と四方寺と  
者童子布衣素袍退紅白浪あの経者と具せしと爲坐り高樂儀經行多め  
タ終りて年利退散ありうちの時多喜の諸人へ十念と授らる今日も終群集す  
あと毎一法金修りてより山つと引ひて信人樓より登るゆどゆうそ

○堀の内妙法ち法花經手部廿七日迄修りあり當主の老少日毎

○涉葉雷神門前坐拂少て親世老縁起是宝密拂ありて洋とゆ

十九日○青山園閣寺逆峯の神車案燈大護摩修り

ナリ供奉月

廿日○駒込吉祥寺施餓鬼修り○牛込櫻町海松寺開山忌

廿二日○湯崎圓波ち施餓鬼修り

廿三日○谷中三條法經 世俗躬さんす 世俗躬さんす 施餓鬼廿九日迄修り

○涉葉日輪有りて一遍と人の忌日法事修り八月十九日迄修り

○下原小古間本村祐祐作多れ都下より請人多

廿四日○小石川戸崎町數多る比義宗○下谷光岸ち施餓鬼修り

廿八日○涉葉本法事無縫糸○地主光宗施餓鬼修り

廿九日○女山稻荷 さとうこ登り又も渋川の辺闇樓より於て同社坐と渋川市

芝高輪 岩川 いあらと今若聖親の第一と貞清の良徳兼日より約一月

のあ妓幫簡女冷の属群とすててその始小集より約二月の間欣宴すりの妙

くすして法事 焼舟海手源川側傍 湯舟天満宮境内 仮田町九段坂

同暮里旅訪社辺 同向不動堂境内 西南小向て月と看よと改りや

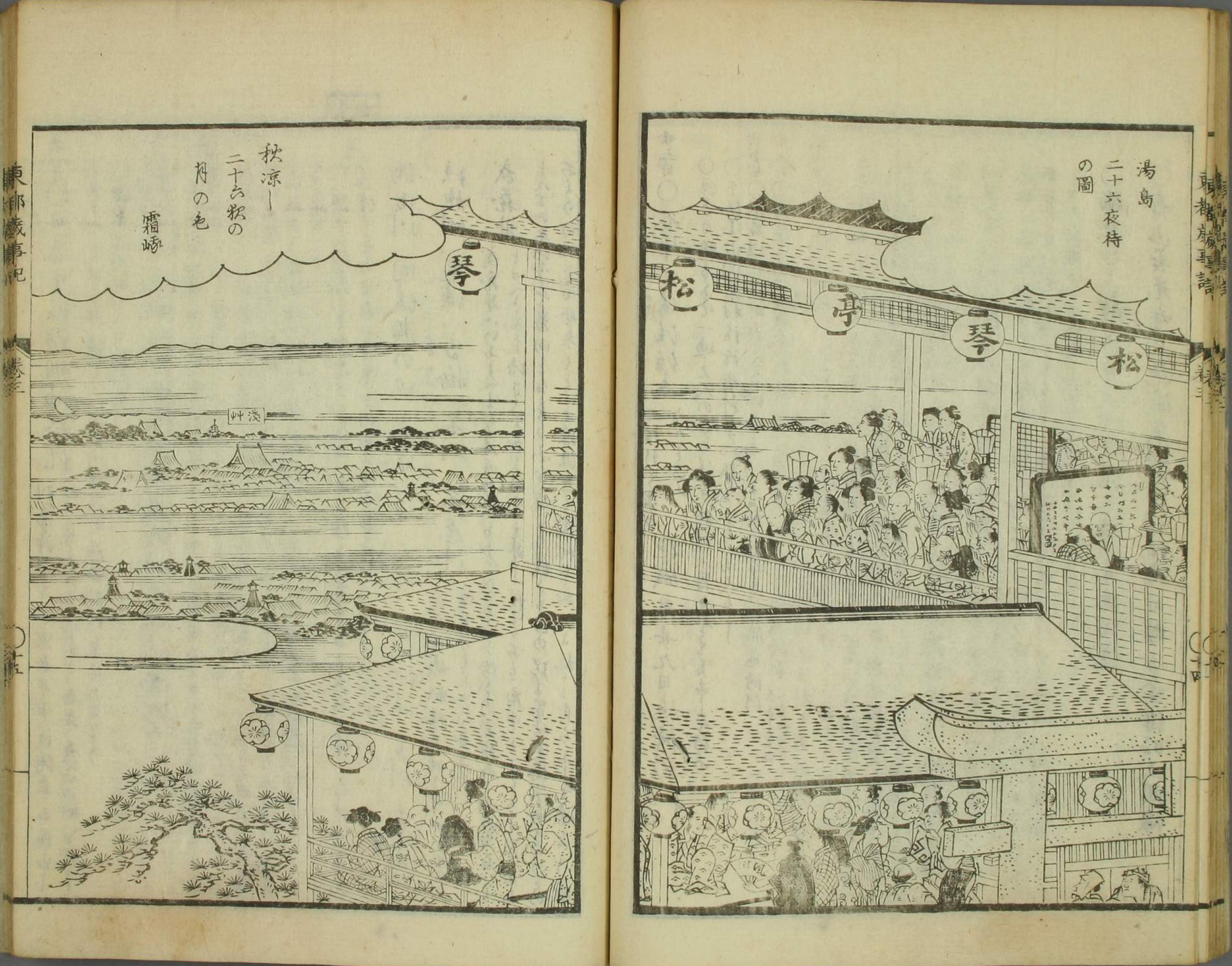
天和二年編輯の紫の4月と田安門外とある件よ正月七月の廿二日の曉

ふ少て月の出と拂へとすてて今ハ七月の三日て西月廿二日ハ多氣也

さうがおねすりのすり伝ひよきうつらべ

○縞付むし静勝寺太田道灌入道の木像開麻

○青山若光寺大施餓鬼修り○板橋日曜ち愛深の王開帳



物景

廿七日○同暮里張訪明神祭孔  
別去

七百〇日暮里御神明神祭礼  
別正月江戸の宣辰年中間賀年小祭也  
ねりおまつり神事も毎年彦子の町と源  
まゆす市日より源町小石川町方の本家もあつた

漁糸○秋穀の場本大槻春穀も同トナリテ  
ナトリキス  
より網り船めをさふ向くはへ出、太極八月廿旬より射タヨリ也  
終く定ク。秋穀も個の邊とる人矣。林のま蝶、越奥かくくもより七月末八月始  
津川大漁。津川秋穀八月末の漁より九月半旬と登とひ太極蝶わリ又九月以よ解  
きも採めり。鱧魚津川七月廿日、九月廿日、十一月廿日、十二月廿日、正月廿日  
津川中瀬。烏城八月廿日、八月廿日、八月廿日、八月廿日、八月廿日、八月廿日、  
今よ同ベ一

隅田川 同緒瀬の辺 真瀬マツサキの辺 二派 源門川 清立川 小奈本川  
浜坂川 芝浦シカナワ 三輪ミツマタ  
玉川 不思池 湯岳の城郭移り映ハシマリエフす 中川

武義殿  
吉義殿へいりより月の名前にて今もうち既に内五時の四宿とおすりて  
とつへくともそばにさくうあへし今吉義と稱する所を府中と玉もちとむら東か  
十八丁の奉地にて農田ともありまちもぢり徒歩ひの門は扇子の場とふありのみ  
やうりの眺望高時率くとて濱涯なく園林萬樹天よ接り自らみて懷古乃感

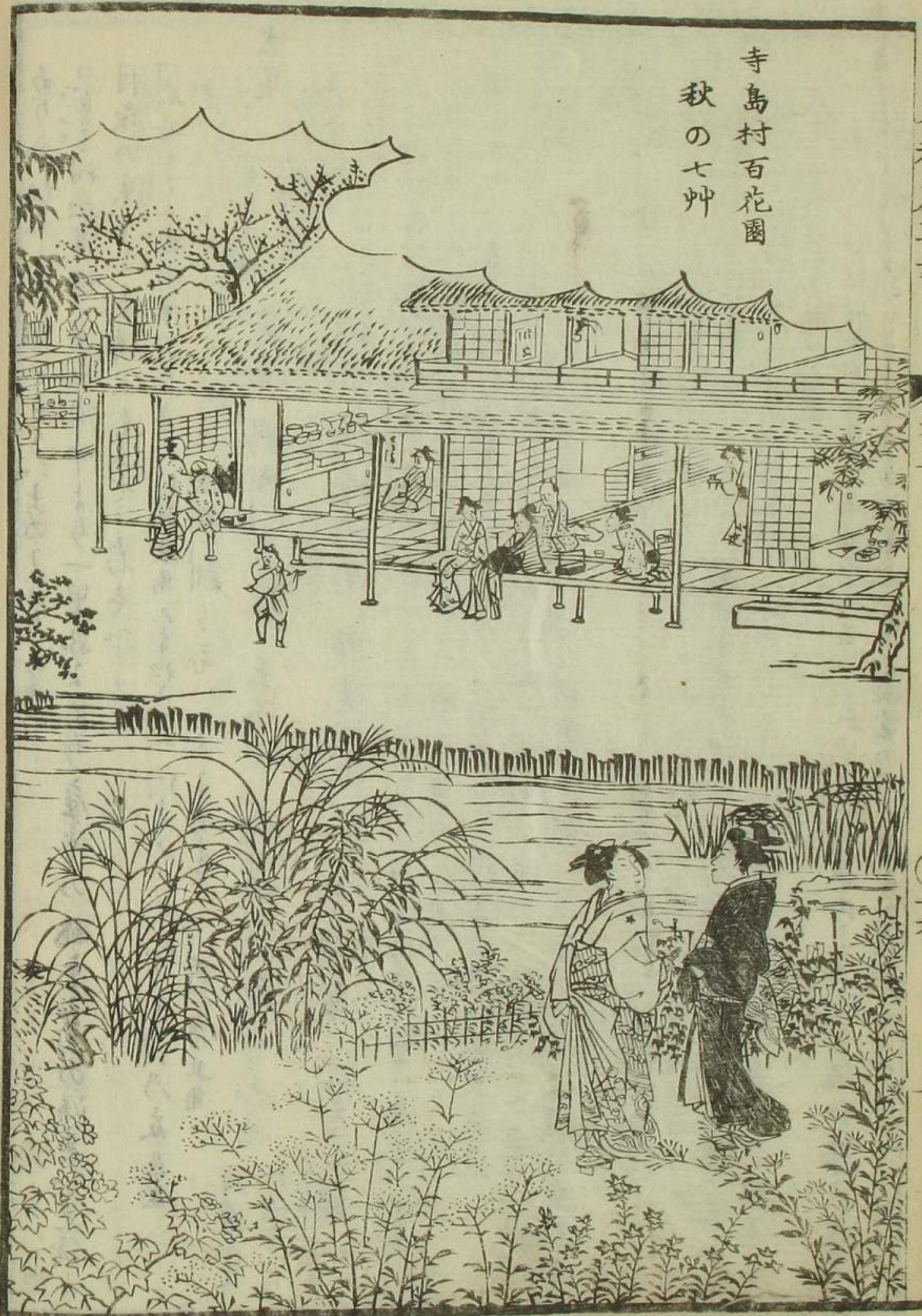
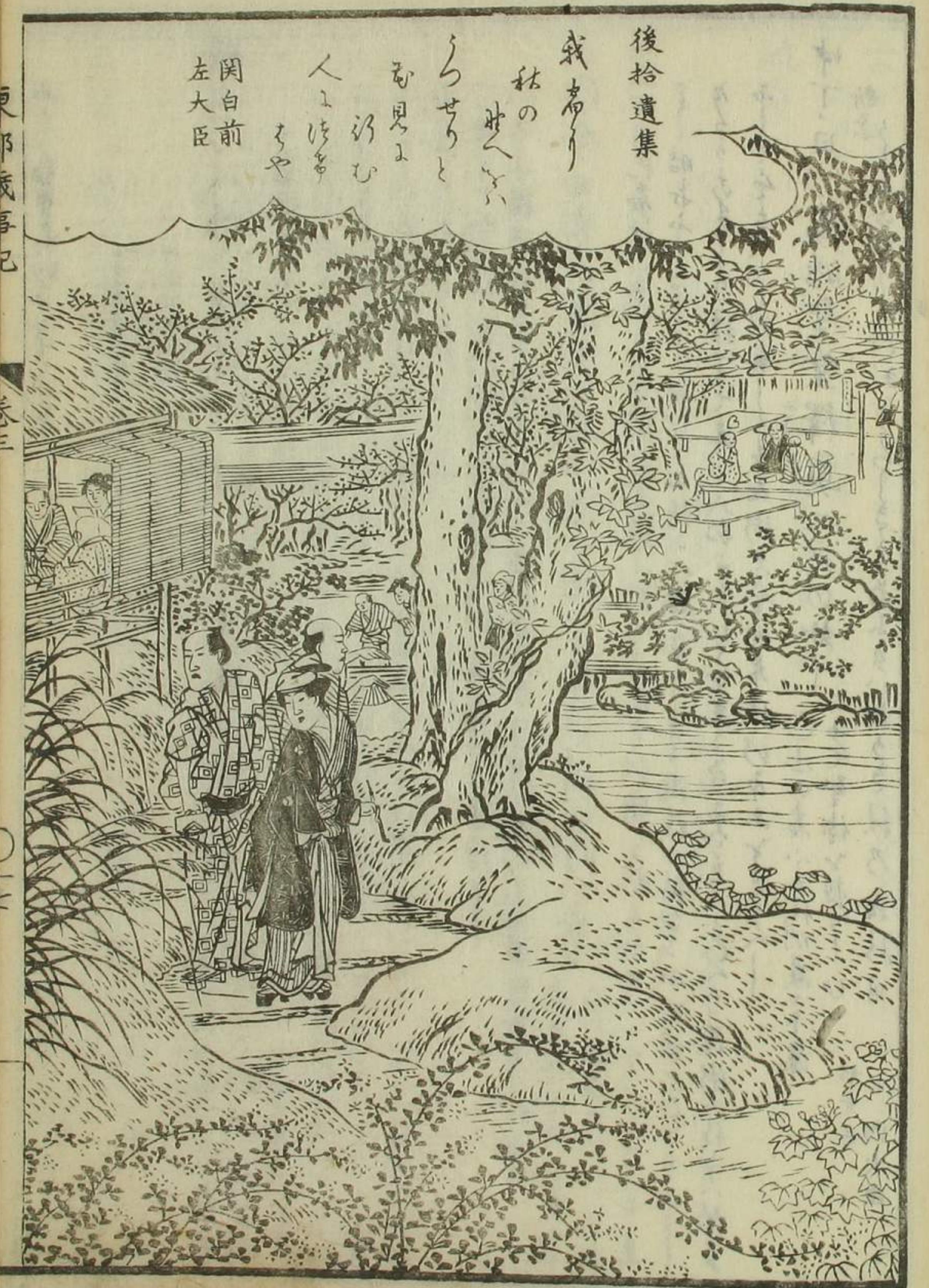
○百々村モダツに蓮禪ルンセンより府中より一里あり度半の眺望山の流まとを廢し  
月夜の景アシカニとも多ふもよて一焉イハタヘ。

宝庫の塔より眞清調用の東海王子辺道灌山範秀山辺

閑居か居の行宮坐御して禁裏院中お奉る事より三、のり  
秋七草○より 寺鴻村百花園 故人鞠鳩の庵より生涯花と愛して大作  
の如きすまく園中草木凡七百金種の開花

○要は村ノ梶原城墨の跡とあるよりとのふよ津の事はむしに従事へ執すらとく  
あまくの聲をとねて入はれへ積ありしきの聲をかよ漏まで死を  
多望すよりは未生しきりよく花形白鷺み似たりと黒老の冠をも由はせ沙子拾達了  
ひそりをも桂木庵よまくやうゆく七月に白花とぞれにうちと作絵の本自ふ集まを形

の青山邊ふ雲燒と号て毎年七月より八月、裏側の山並みよかき桃林燒が延びる  
の名ふけてゆきりうらうふをもくもくと雲のやくさあるもの。年々よく乃



やーなを名づくとそ

八月

朔日○八朔清祝儀ふつ時向椎子貴賤佳節と祝モ今日と田裏よりひく  
とも東坂にてまろげく祝めへき日から至る八月一日台駒もとおそれ  
江戸ふへせよとて毎月清潔奉申一ノ日公をもみの佳節よりとひそ祝めらるゝと考  
神恩さむらをも祝めまつるへき公をもみの佳節よりとひそ祝めらるゝと考  
せん。元禄のほ清潔長瀬とふ人の編輯の中江城八駒の向うよりハ八月の吉と  
向駒とすやうるがくより

○雜司ヶ谷鬼子母神境内警明神多礼施廢の事復神り

○昌平橋通松平家の手に清神王宮奉事十月近修行火種雷轎除まられ也。

○今日吉原遊女一般ふ向小袖を着て仲の町へ出る。今日白安堵とあす  
丁目巴底源を萬う方の遊女ある様とくらを走まほ瘧とねらひくるうす。の客來  
ア時おやあらうと白いの條とて揚庭入へる風情の絶えずふ万客もひとすやす  
タよりおまかうと接する年も八駒ふ向むくとあらうとあまきりとくら花街の行うハ繁多  
やでをまへくは要くとくと在御大會同年中行ゆふとくらへ

仲丁日○湯島聖堂釋奠二月の如一○山の森小笠伝明度下蕭  
新系人のむくお新とくらうとくあふたへたとき秋乃秋行月

妙光寺  
内大臣

二の午日○小川町みち松云とて清ひかり社より施廢の事とて一七月節より八月  
午の日近修行と申し二月初年の件ふ紀を如

被峯○秋分の初日より二日又申日近修行

○六所深陀糸れ所観音糸

奥は九品佛糸ホ二月被峯の事と

同中日○塔上寺油糸ちゆと岡き登樓とゆく。上時ハ今日

計りうず

○よ聖法多親若堂放生令○高輪泉糸も二月の如一○田畠大社も土砂加持今日

より三日の官修行○下深谷も土砂加持放生令

波岸つけの日○豊源門場も施院川施餓鬼修行

二日○中地宝仙も光明殿と沙加持修行

三日○谷中三崎法住も岡山忌。岡山不願和尚の忌あり

四日○今由大川中洲の辺よ於てお州諸食松糸も谷妙法も川龍隊鬼と修行を一家の

門徒約多く申す

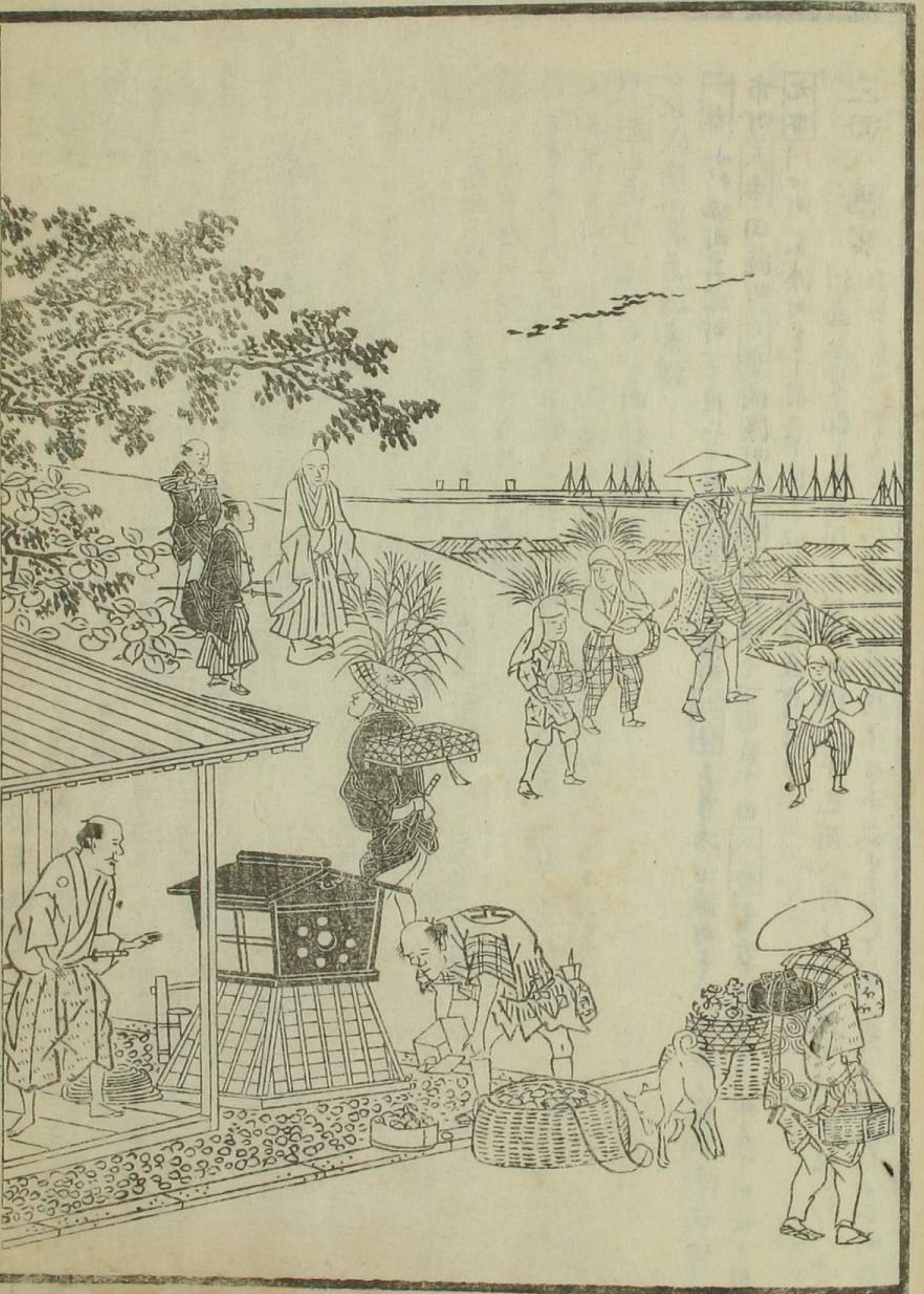
六日○中延八幡宮も巻陀羅尼英說法十六日近修行

十日○清宵とくの松の陰晴もりかと冬も、先今雪の月と賞めへき。古人も

どり○西久保籠林度院も教説教。今日

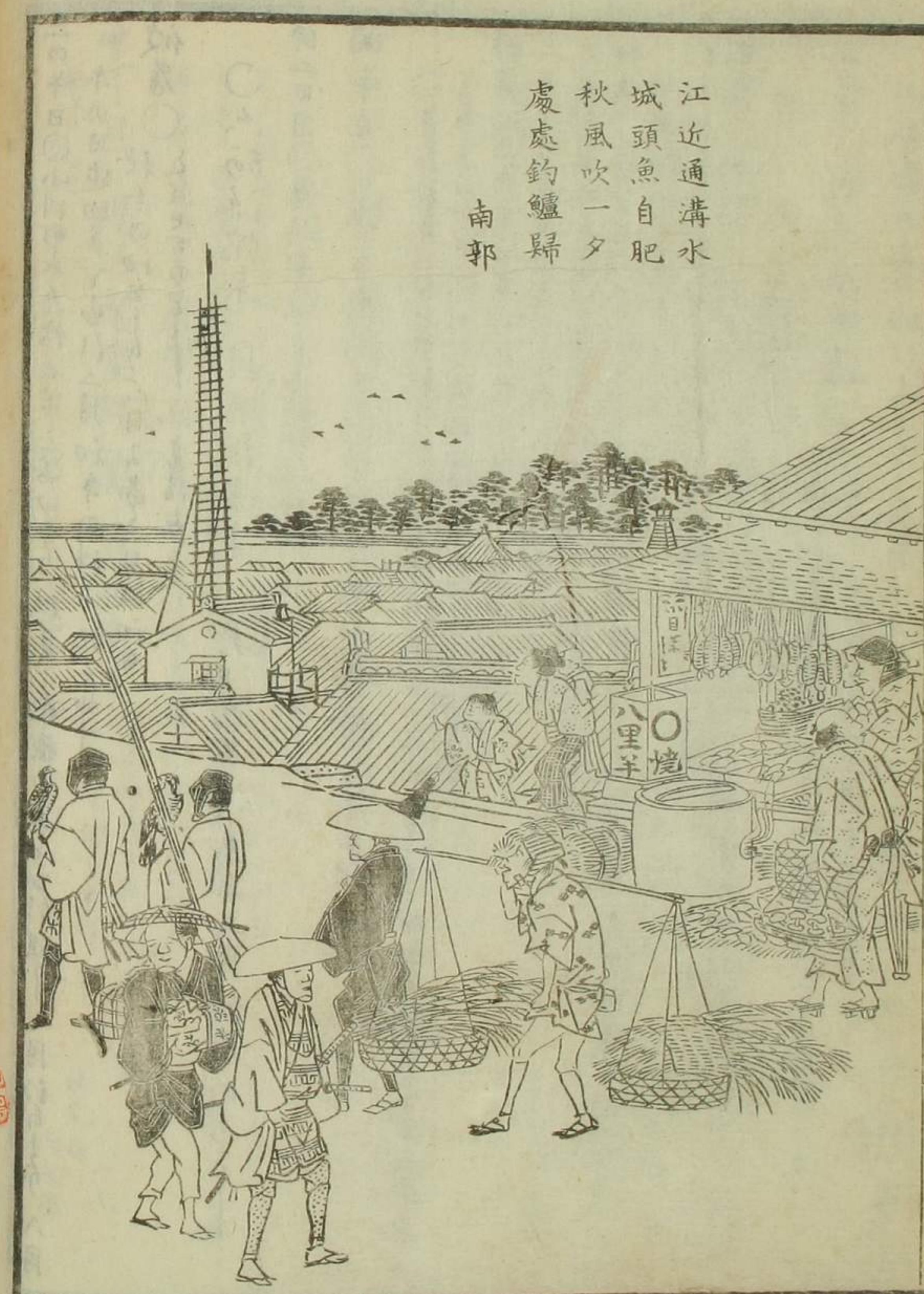
十一日○看同諸所脇へも。都とまよ送酒すきの花木用ふ供も清光の事

○今お志の縁ひ大方かくは廓中のゆりかして遊女より訓練の密へ様と進る事



江近通溝水  
城頭魚自肥  
秋風吹一夕  
處處釣鱸歸

南郭



宝永の辺角山にのを支齋より始りたりとせ又泊霄既解ともふ縦  
○元禄の辺近い良軒トニ流の間見えて此處大内へ出る一やもては夜も陽も  
宿のゆきと滑て花火ととわへけりけりかうじ  
津戸舟拾遠ふりて ○本古連麻布六本木芋洗坂よま橋底ありて八月十六日  
市よ市えて芋と商ひ物影うりて左芋わらひ坂とトヒタヨカウリを東坂まよ市えり  
ノ月やあひ往古乃細りまち角名自や五士又あらうとすもう下素持  
○八幡宮祭禮 富賀岡八幡宮 トミカオカ  
列祖永代も 十四日より始り終り通社多礼、寛永  
ありと文紀に郊年まくも隔年ふかホ一の鷹の旅也へ作幸めりく同日  
役妻あり産子の町くよりも生れゆりめときく出せう國六己年より歲ありてひよと  
止む今境内額寺の向へ役屋と稱へて作妻之基と云々町く懸神酒不挑灯飾り幽  
あり縁ひハむくもくらすとつづり産子の町たのあとし  
出一物り物とゆ一くるもろの齋能なり

初番 霊峯寺門前 一番 浦辺大工町 同 蛤町 二番 清澄町 三番 佐袴町 四番 小川町 五番 桃井町  
六番 富吉町 七番 諸町 八番 大源町 九番 中源町 十番 小川町東川町 十一番 志以町 十二番 元本場町  
十三番 本場町 同 幸町 丁目 江戸勢源町  
○承代橋向灵峯寺傳書組  
一 番 小野坂町糸瀬町二丁目二丁目 二番 大川場町 三番 灵峯寺向銀町幸丁同卦丁同 四番 同四目  
市町 五番 同五町 六番 同五町 七番 南野坂幸丁同卦丁同 八番 霊峯寺傳町長崎町幸丁同卦丁同  
九番 川口町 東湊町幸丁同二丁目 以上合計五町あり

春町芝因町三丁目より九丁目迄同横糸町通糸町本以上十三町なり當組付四子町  
同春町組合て十二番なり

西久保八幡宮 別当善門院 每年神幸事の町と渡り西久保大通の人々旅宿  
と儲けく十三日より御旅あり今日放生会とあらず町より  
隔年通り經り物を出しうる丑卯巳未酉亥の年から神幸事の時助善よ産家の  
町名と後緝よ洋字にて

市谷八幡宮 別處東面も 今日放生會あり 姫永之年年近ハ隔年沐糞ニ基成  
年々度子の町へ舞臺と儲水涌りと達シ 美出一木造りて十日より繰くり安永の  
番組左のよど

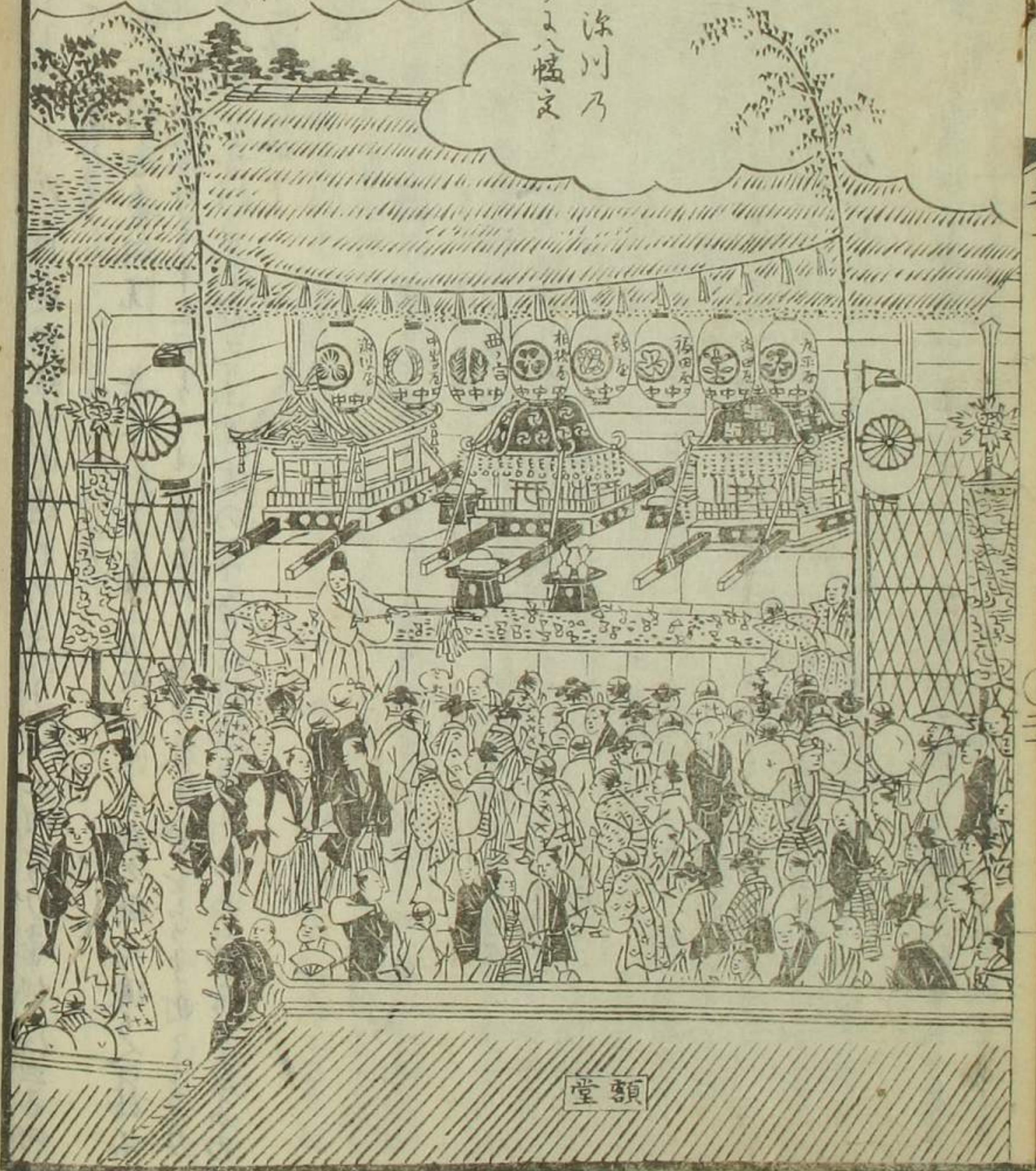
一番 市ヶ谷谷町二番 因本村町三番 因序町四番 因柳町五番 因甲良屋敷六番 因大丸  
塙町七番 因某王も門弟八番 因南も町九番 因妻也もつあ十番 因田毛丁目十一番 因左内  
坂町十二番 同上も町十三番 因田町上二丁目十四番 因下二丁目十五番 因三丁目十六番 因  
七軒町十八番 同八幡草町十九番 因老延ち谷町北番 因平山町北番 因女坂門あはとせ毛町通り  
同上 東神喜坂御の筋筋ハ八幡町少極淺少て伏車おまひ同里丁同通り 水田駄やアキの  
坂町へ入セ軒町にツ谷山草筋町福島院あへ出でましアリ 桐原源次郎敷や菊見あより蓮池  
の上左へ谷町へ入り本村町田町丁同裏通り八幡町をひびくとひく高家の店あより市谷  
山入之番町處より定山火消廊一き歩通り牛込山へ歩て田町通り左内坂尾川公ふる尼  
之深地通り某王も町南北町柳町甲段やれ去九場平山町を延び谷町より左内坂通り  
ぬ事あり一と終

高田穴八幡宮 別當放生寺 宝曆九年までハ隔年秋坂の御旅所へ御幸あり奉事  
町よりも花山一涌り塗ぬと出せりう同一年より牛姥を毎年

八月十五日  
富賀岡八幡宮  
祭禮

視吾堂集

武説のひんうー源川乃  
流を清きわくらよ八幡宮  
いそれおアキミ  
おのぶあづく  
永代清とんす  
八千の致系持  
ク免てもうき(新き  
すよ遠く江神代  
のせめは源陽令歎  
けもむかひりふ  
たりをく拂よけ  
く小船六渡のそり



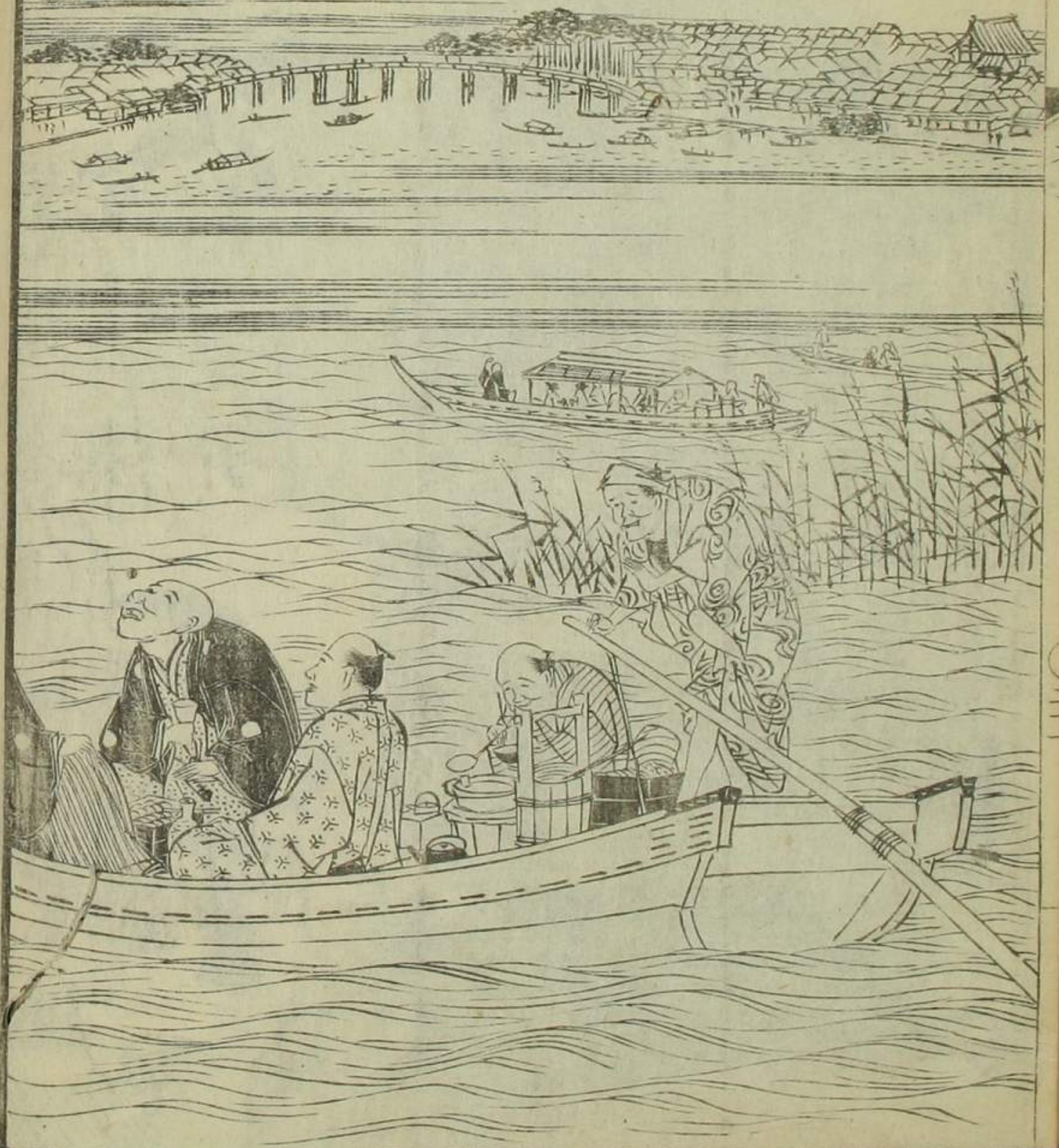
額堂



良夜墨水  
看月

墨水連天濶秋  
風二絃開潮平  
明月湧山近白  
雲來病嬾人情  
變歸心酒慙哀  
窮愁書未就短  
髮虞卿催

金華



玉葉集

かくへせ  
あくへぬ

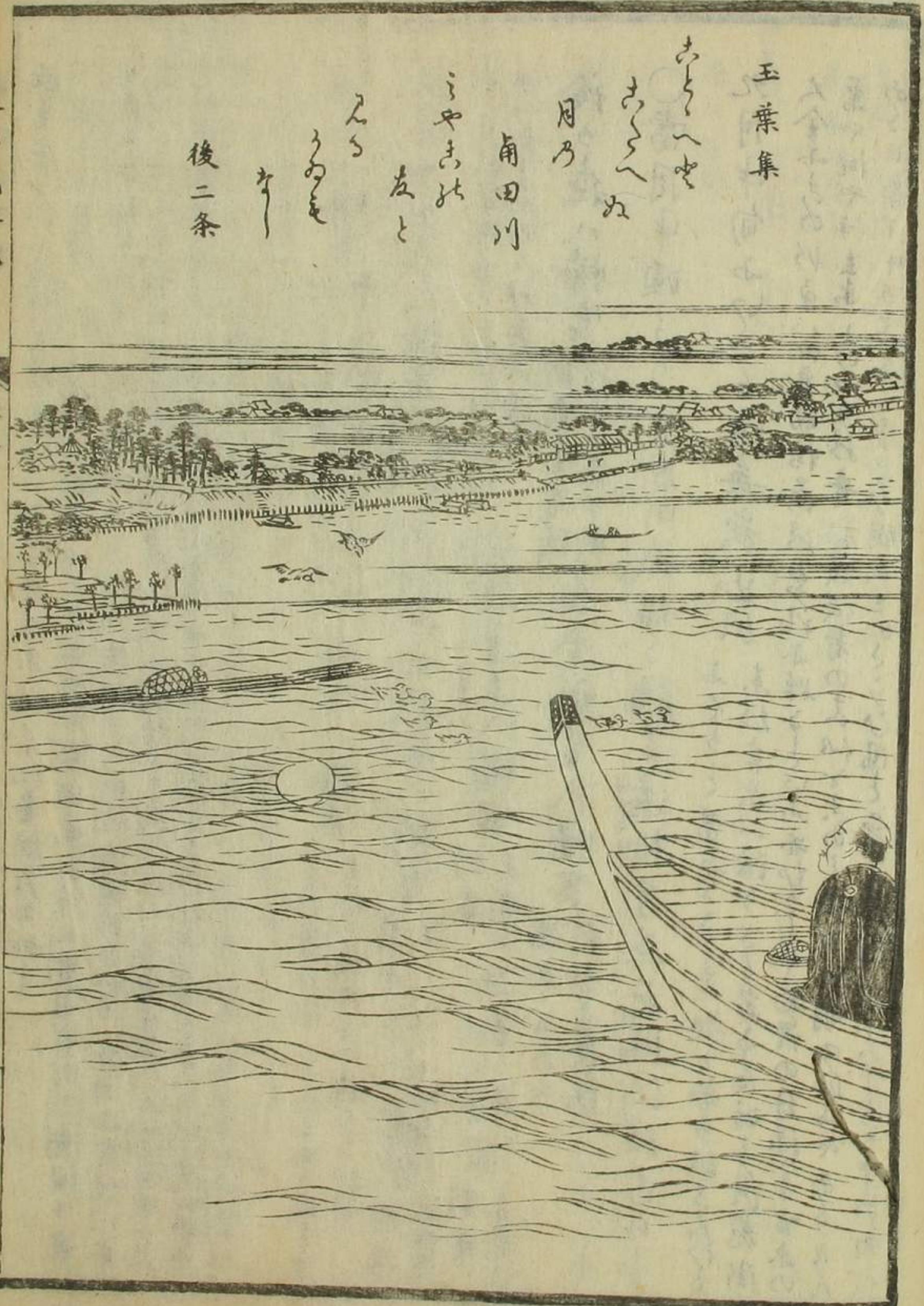
月乃

角田川

いやあれ  
友と

ひる

後二条



放生會と河へ境内は放生活あり宝曆九年の多礼番組たの如一

一番 牛込者町 二番 同安養門前八番 同通門九番 同末門十番 同横門十一番 同正定院門前  
 菊町七番 同安養門第十二番 同久戸前町 四番 同若宮町 五番 同袋町 六番 同草  
 長源ち門第十三番 同久通町 十三番 同篠地岸町十四番 同る湯光井町十五番 同改代町十六番 同四  
 戸町十七番 同四細工町十八番 同中里町十九番 同中里村町北番 同無天町北二番 同供養  
 塚町北三番 同接町廿番 同京町壹町同廿一番 同二十同廿六番 同三十同廿七番 同若松町破損町大八番 同  
 早稲田町北九番 同る場下横町卅番 同放生會ち門前一一番 同る湯下町以と二十三町なり  
 ツシト  
 藥土八幡宮 別商玉靈寺 產子の町 大護院 牛込山河り放生會  
 沖糸御神赤八幡宮 別當 同福井町銀杏八幡宮 寛叶 今戸八幡宮 别商  
 通りと連す十四日より始り 美宮八幡宮 別當 同ひ境内にて通りと僅す  
 放生會あり宮戸川へ魚とシダヤンワ  
 今日放生會あり 産子の町に神喜成波す 滋谷金王八幡宮 别當 田畠八幡宮 别當  
 給が森八幡宮 别商密慶院 白金誕生八幡宮 隔年少あり  
 作主森田氏  
 別商高福院

○當月中頃より吉原町俄始て涌呈蓬物等花葉風流城あら一

九月中旬みづる迄毎夜出る みづると謂ふるゆきモ 拳とからひさきと  
 大金小金のれりハ九年助移務は來れ小始りとよ亦むちしくね燈の付保り吉原の  
 葉や桐や桜えとひりの奇舞妓役者のま似とよのミ安永天明の御みやありん  
 ある日角丁中万字屋よ居す朋友とかくらひ風とひ付て狂云とおーらへ年の所ば

往來一々多くあるの日は遊客參りて見物一室中のほとりより水第ノ長一  
 年毎のすくもとへかんまとそり尚るねへ

十七日○麻布一本松冰川明神祭禮 別商住家院 十八日神樂宮下町の役人、旅  
 踊り株ね花出一木出一本松ハ商社の神本小して別處より當日注連と腰もすと

一一番 宮下町三番 本村仲町三番 本村上町四番 一本岩町五番 二軒家町六番 宮村町野町  
 七番 南日ヶ窪町附り小日ヶ窪町八番 宮下町付り躬細町壹町同二十同 神喜 別商 社家  
 あの社家ハ坂下町末廣移居の社司中もと先例よりて供奉

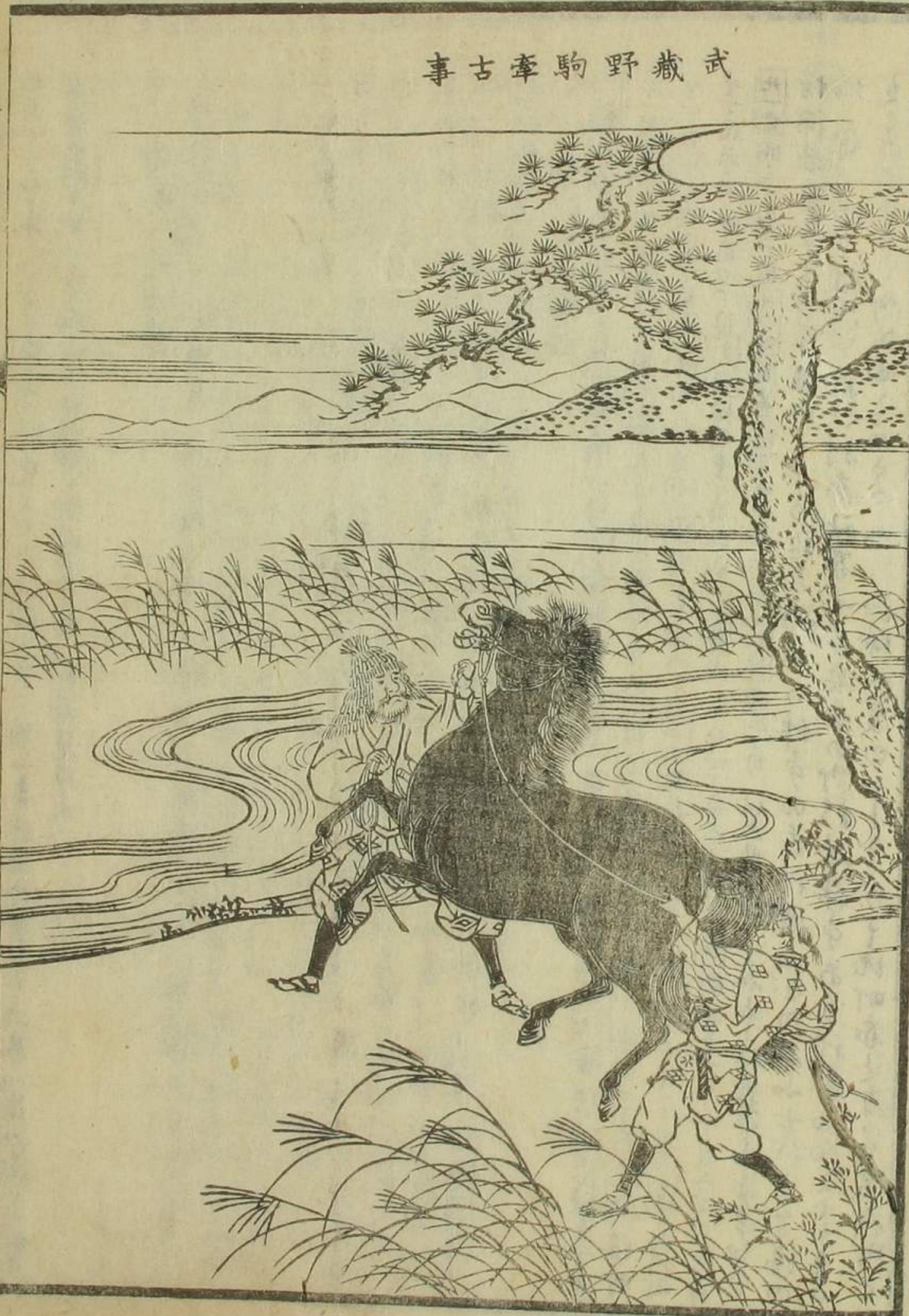
十九日○下谷坂本小野照崎明神祭禮 別商岩松院神喜一基年く產子町くは波  
 花出一木どりお出 両社ハ小野照崎の是社すり九月十九日ハ曾々波瀬の日あり  
 とて参れどお出い天明四辰年號ひより八月五改より又九月十九日ハ両社遷宮  
 日かりとも

廿日○牛込弘福寺岡山忌 岡山縣牛和尙の忌ふたりて法會とまつる  
 とくらりありまほのりへ普茶とせり

○武藏野駒車 今幸一幸中行車お令すも出で古き世のくわへなり或處の小  
 車りくると木拾芥抄大八月廿日小此のと車き二十日五立其のとひきりとあり  
 むきり時折りけり約のくへて木は木ノ庭よりのらむ

廿一日○慈戸天満宮祭禮 子寅辰年申戌の年酉年より廿日より廿日  
 追奉あり今日豊川通か代町津屋町写目ひつへ津屋の儀式

武藏野駒古事



後撰集

秋之物の  
立け

泊と

ゆく

君やあひ

のりて

忠房



あり一ヶ年あるを由来とす。是れは寛文二年社地を有り同三年神殿經營ありて是年八月神事の紀武

宰府の例よりして始て本の始と巡行すと云。別當葛原氏

神輿行列次第

先達太鼓白浪三人 棲田彦 陸舟桶白浪主人 拝 四八人 唐櫃 神主に取白浪  
日絆白浪主人 社家謫る主衣三人 漢持度子町中 敷捨 社家謫る主衣三人 宮作幡白浪十六人  
謫る主衣三人 十六方幣 布衣十枚 三十番 神幣 布衣三十人 社家謫る主衣三人 火水洋白浪二人 神巫  
二人 白杖引 東道八人 社家謫る天水太刀負主衣主人 社家謫る葛原主衣  
御先遣 滉形持 布衣三人 青幣 布衣主人 向幣 布衣一人 隨身八人 御笛柳管持 布衣三人 樂人 紋衣八人 霧櫓二掉  
白浪主人 説詞役持衣三人 締醫二本 白浪三人 神喜 智善下二十人 植笠亭本白浪主人 葵醫二本 白浪三人 神几二直浪二人  
唐櫓二掉白浪冥大級父令級挾管白浪冥雜刀東道主人 袋華白浪主人 邦黨十人 小食人三人 紋衣三人  
太刀牛副白浪主人 別當 素車雜色六人 番白浪主人 搞階白浪三人 掛杖白浪三人 長柄白浪主人  
令級挾管白浪三人 副牛牛網白浪主人 穿る多礼役人

祭礼町々番組

一番 本所生町主丁目二番 同二丁目三番 同三丁目四番 本所生町五番 柳原町六番 深川和松代町七番  
二丁目七番 同二丁目八番 本所生町九番 本所生町十番 同二丁目十一番 緑町  
主丁目十二番 同二丁目十三番 同二丁目十四番 同二丁目十五番 花町十五番 法名町主丁目二番  
主丁目二丁目二丁目大番 林町主丁目二丁目十九番 同二丁目二十番 柳原町主丁目二丁目二丁目自  
北一番 同二丁目二丁目北二番 同茅場町主丁目北三番 同二丁目二丁目二丁目二丁目  
増補熱麻子云享保のをじめ近ち隔年の神事の花神裏主玉の車小古代以上も場の  
北よ暗く止り修禊と掛け別当社家主が安全の御祓神事あり神事向ふすをま  
とものより 御城西よりくるか 江幡渡の如き今主地町家とすを後代町と

ノヨリあはるを主ハ一の様みてとの考ある由云くとあり 長代町ハ神廟場と云ふ也

廿八日○龜戸天満宮祭禮の神事なり 年の時季幣廿八首の神詠

○下谷天満宮祭礼 ミタヤ 天神天神の御殿へ○茅場町山王街旅店天満宮

廿八日○龜戸赤不動尊開帳

○本所生町見せ物新底の鐘やく花火あり

「おめうきわひ新文くとく 花火灯且水 あめう羽誠と語ふまく病 浮萍

○被屋より世日漫延て地図り新酒の船江戸へ居候下總を陸と呼武列立あかり

○清糸海苔 东の名産にて清糸へ送る物 今小糸より太糸が浦清糸と  
絶えずは清糸の地元港天井の波まで此の傍漁船農家の者子の地の浦清糸出で  
浦若千石干ひうけく繭一より浦若と謂ふ。浦若の名稱りも以降ハ江戸の市街東南の方ハ  
皆江戸より移りて居ゆるゝも風味すゝ芳まり今浦若よりも案思毛の二名はす  
其の浦若よりて居ゆるゝも風味すゝ芳まり今浦若よりも案思毛の二名はす  
其の浦若よりて居ゆるゝも風味すゝ芳まり今浦若よりも案思毛の二名はす  
其の浦若よりて居ゆるゝも風味すゝ芳まり今浦若よりも案思毛の二名はす

其の浦若よりて居ゆるゝも風味すゝ芳まり今浦若よりも案思毛の二名はす

## 景物

あらとまきばまで高川より水をのりとれさせて溝まみく製へらよ。記せり参考下  
はあすりやまひまでに高とりふあり又生溝も賞能を沙えやかすぞ。酒若  
の味を角「のりすぐあは名ふすあ都を全

萩○立秋より三番戸新眼寺 世ふ萩もとつて店中の  
池邊ばかり向まへか

社内立地燧を社前北邊も鳴蓮花有。同天満宮境内 ニノ園

社邊 午谷正燈寺 沙室溝ある。同東光院

芳板花季慶より出でて名石と詠へこれと何年と見てよりかうそれへ爲る  
漏の

花野○鷗田川堤 豊源 トシマ 麻布度尾原 落合亂山邊 代木本體

## 九月

朔日○今月より八日迄諸人給衣アハセと差し

○本所柳條妙見宮閨帳○同石押上普賢井閨帳と巻普賢品修祈

三日○南品の満禮アハシマ 家

四日○中田馬長泉津院閨忌。用山塔とあるあた僧正成譽大玄和尚の事なり

七日○太源渡主の満禮アハシマ 今宵坐と自より

九日○重陽寺縦儀諸侯 花色 小袖 南登城良納佳節と況セツツツ 菊の酒と似て  
○良納今日より繁夜ヨリレキス とぞアハシマ ○神田照作翁子の町と今和より躬提灯  
○之因春日明神祭禮別尚 神事 ○同恩之多の神事礼と撰舞 アヒコ 大聖院  
○高田の移居祭礼二十六度御火舞引列高宝泉も○南河内高松の移家  
○吉同 下ヅホラ 総法事と法花燈子部十八日まで修了

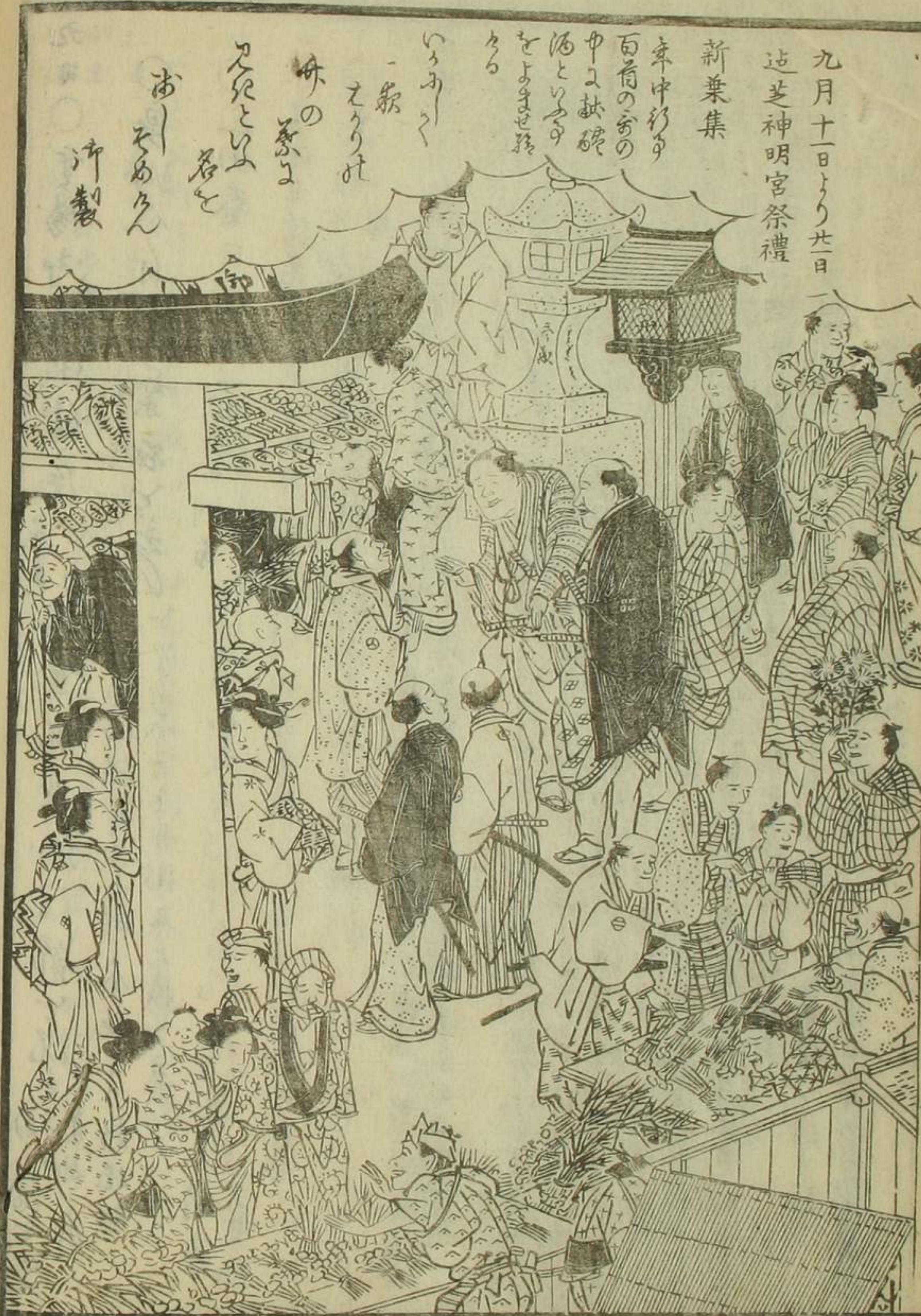
十日○小石川氷川明神祭礼 丑印己未酉亥年隔年又産子の町より出で 行  
門高移出アハシマ 宗家も

一番 小石川原町 二番 同不七野町 三番 同戸崎町 因祥堂の門を因法傳ちつて同在運古アハシマ  
四番 因高橋戸町同向橋戸町 五番 同出揮除町 六番 同柳町 同下裏坂町 東側同修道院門を  
七番 呂仁ちつち八番 同大原町 九番 同宍戸町 同久保町 十番 同久保町 同達水谷町 同裏  
角町同智番ちつち十三番 同光島の門を因智光子の名 十三番 菓膳町 東側同小石川大寺 十四番  
菓膳町二丁目十五番 菓膳仲町 十六番 同榮藏町 十七番 小石川坂下戸修町 十八番 同仲通院アヒコ 表町  
因白之門同陸三町十九番 同上裏坂町 十九番 同金移の居町同仲町 二十番 同宗堂古のあらと世の町之  
○高輪戸門も移居祭礼○板橋氷川祭礼○臺西金町番名の祭事  
○今日よりも油燈籠とある二月毎日かかづ古より定まる俗事アハシマ  
十一日○今日より般念寺の宮索 芝林院の事不十二日 ○下谷移居女庵津井湯花母引

九月十一日より廿一日  
達芝神明宮祭禮

新葉集

車中行す  
百貨のあひ  
中又缺破  
酒とりすり  
をよませる



○今時同言論する山稽宿祭礼

タカナワ  
安泰もお

十二日○日蓮上人御冠の候キヤウ文永八年九月十二日と人相別候のにゆにて孤と避々アヒ新にちへは芦巻をまよたり法す者多し○牛込橋も町田橋も四輪會移入るを

外熱も院乃

○二芝居カホミサの世界

二度よりふ東屋芝居本戸に又ハ吉支元の宅又拵灯を出  
アモテ松見色の趣向と浮きをむ化少とさるよつて

十音○看同カミ後ハシの用宴とく夜被ヨハキもむる華枝豆すきの花木用よ併是御中因見多

○越戸天満宮用宴和あ連寄手舞引

○源川六間堀神明宮祭カミヨウ江泉養も安村至る正月八月の如

○源の内妙法寺御師閑帳○涉並びぶ店を遠ち御師閑帳○難司谷室城も御師内洋

○高田本松も經満御師子巻院羅庵修引

十音○神田多紀の前日から世俗教官又絆りとく多紀勢掛あり仍列と移てを邊  
石筋の成駒町家あゆも賓客とじく食通いのとよう御の娘ひ筆紙は乃ひが  
社印も事務群集は多紀かねづる町へ軽桃灯とうけ太閤と御み立酒檜蒸築城  
狭井酒貯浦程も。今日未刻作業中常社教精衣布衣白子おめ使者と見一かねよ  
於て経祠を奉一作業奥なり。酒業日論ちよそへあ社のがりかと後今之津

芝浦氏は頗せしもアト終あひ邊かて芝浦村と云ふが日滿もとひやへ芝浦を場と  
ひ又作戻り姓とくちの嘉よ爾年多れのあらその中別より日滿も良信と号  
ありく、法陀經一部を後浦を経りて朴善と名む恒例にて今ふ焉  
○湯島鱗祥院春因局の法會諸入川洋と申す也

十日○作田の作事書  
作をせし清及丑印己未丙寅年隔年よりは古、あは津田橋  
店あらとてよりは、宅ありより作事多めふてゆ小町作田屋  
坡沙小云りキ后天和多中より隔年より下りたりと之又  
より始り一とくあん丸あがのあれ、六月十日自ゆの四あれと首とあはれり並く  
あよ合せ、あよれと絆を

今有作事入用にて稼よを引きゆるにて、紙少ぬ、柵と結び諸處より、木桶漬け出され  
林木と草せ、竹竿は引抜む處あり、產子の町敷六十町敷三十石畠者出づ絆り、細  
ふ若葉をそし、壯齋鄙人の貝と聲りしむ中、内例多くもて歩ひりけり、一畠の窮  
ニ畠の株ニ畠の翁人形四畠の和布蒟蒻作六畠の絆修八畠の圓羽圓金人形九畠は然坂  
人形十畠の猪正坊牛若人形十二畠の二見浦十六畠の玉蓋鳥等絆付笠絆、猪  
十八畠の鴉穂よ蝶女畠の猪作サニ畠の大木井女畠の猪の猪う畠放生舎セ七畠乃ニ象  
小紙淡小物世番の羅子世一畠の武内志林人形サニ畠のえびナビホ  
なりき外ゆる毎年必ずありのあり牛ハ御まほ牛車みて曳かりもの外ふとより遙りの  
實物數多也

太鼓 御幣 枝 紅葉滿る 神事 紅葉滿る 長柄 小舞十本

新町一丁同四番  
同二丁同五番  
渴町六番  
龟桥石町七番  
原町一丁同八番  
同二丁同九番

花町十番 三河町亭丁同十一番  
牛鳴町同 湯屋町同 今浜町。林家一の宮浜  
太鼓 部子及二田承士家高馬寺井  
社家高馬 五郎高馬 伊助士家高馬

社家ある 青木社家ある 本柄繪 伶人面 以幣 专絶品 大椅子 伸真 神几  
社家ある。二の宾乃門 伶人 鼻毛ノ幣 畫色 上向か 申出下ル 申出上ル  
之は此也

社家継子　牛柄捨　突株　以上  
十二番 岩井町　十三番 横本町  
十四番 同武丁同　同二丁同  
十五番 佐久町　十六番 同三丁同  
十七番 同四丁同

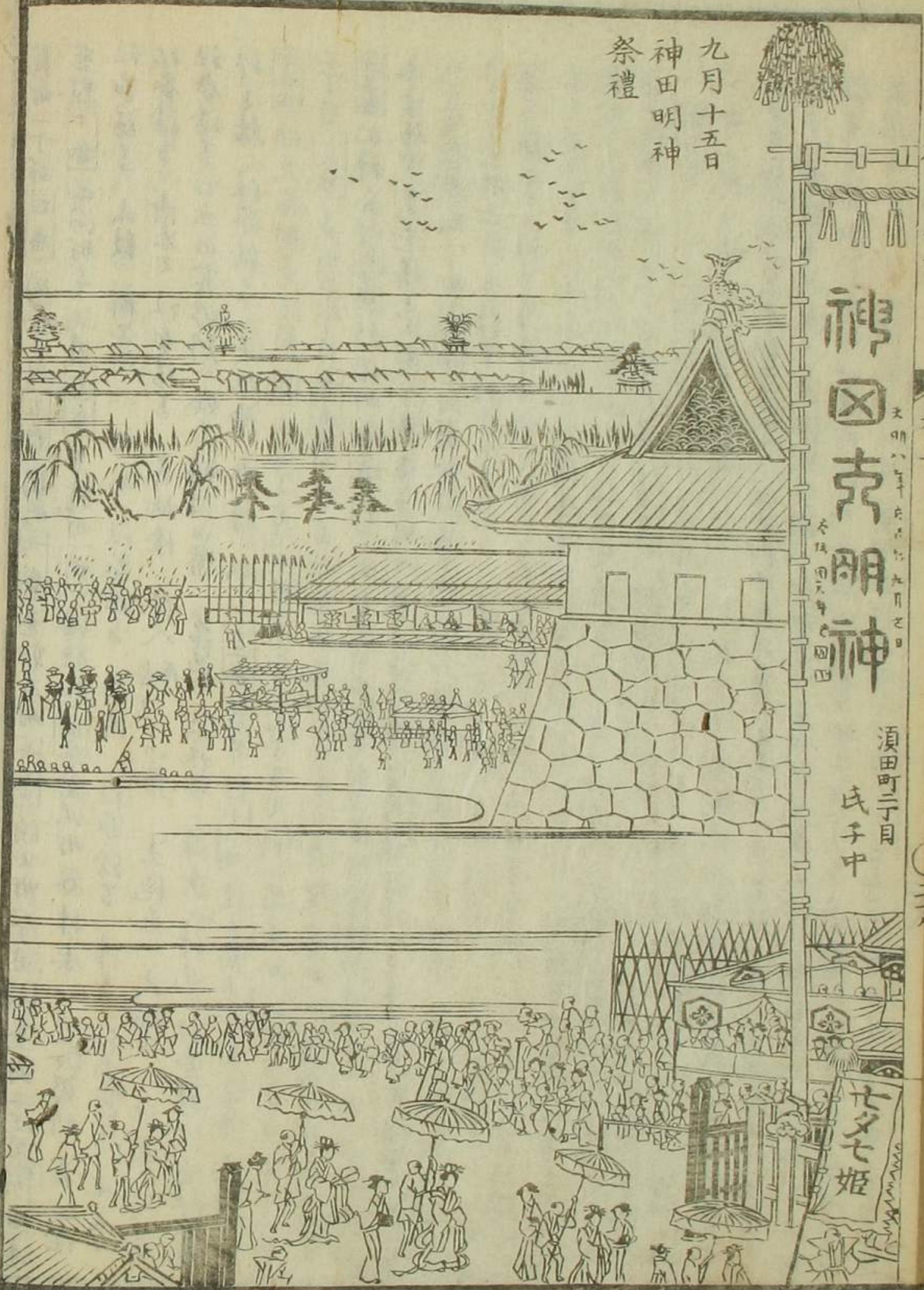
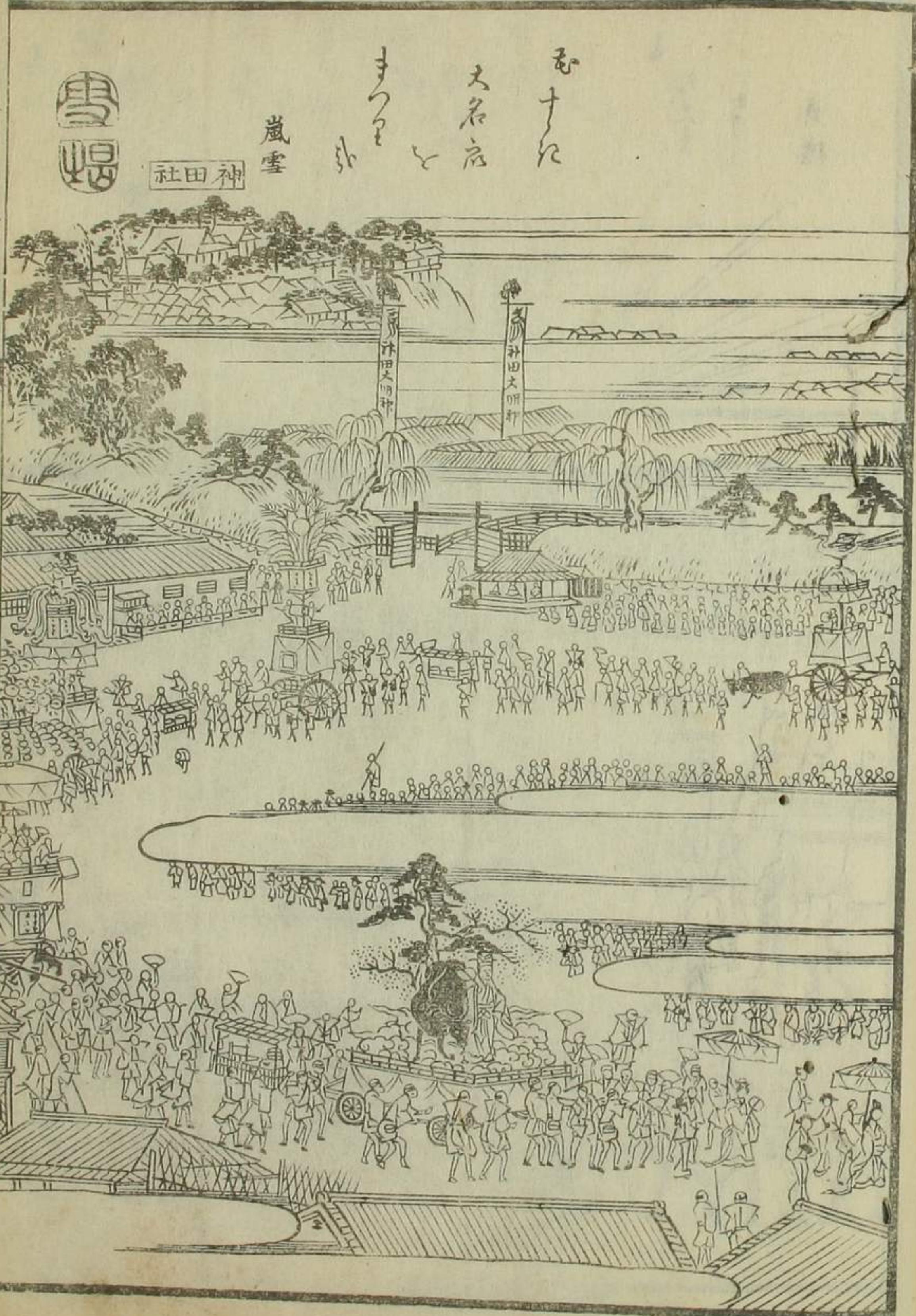
二丁目十八番 多町亭丁目十九番 因二丁目廿一番 永夏町口丁目廿二番  
廿三番 河津町廿四番 新良町廿五番 乃木町廿六番 乃木町廿七番 佐原町廿八番

タリウ天の御多神を御よきりて十一番と十二番の事ふくもゆともかまう  
南向様の事と諱也と云ひまぬ象の御向幕垂幕及とよりて古(古方行)

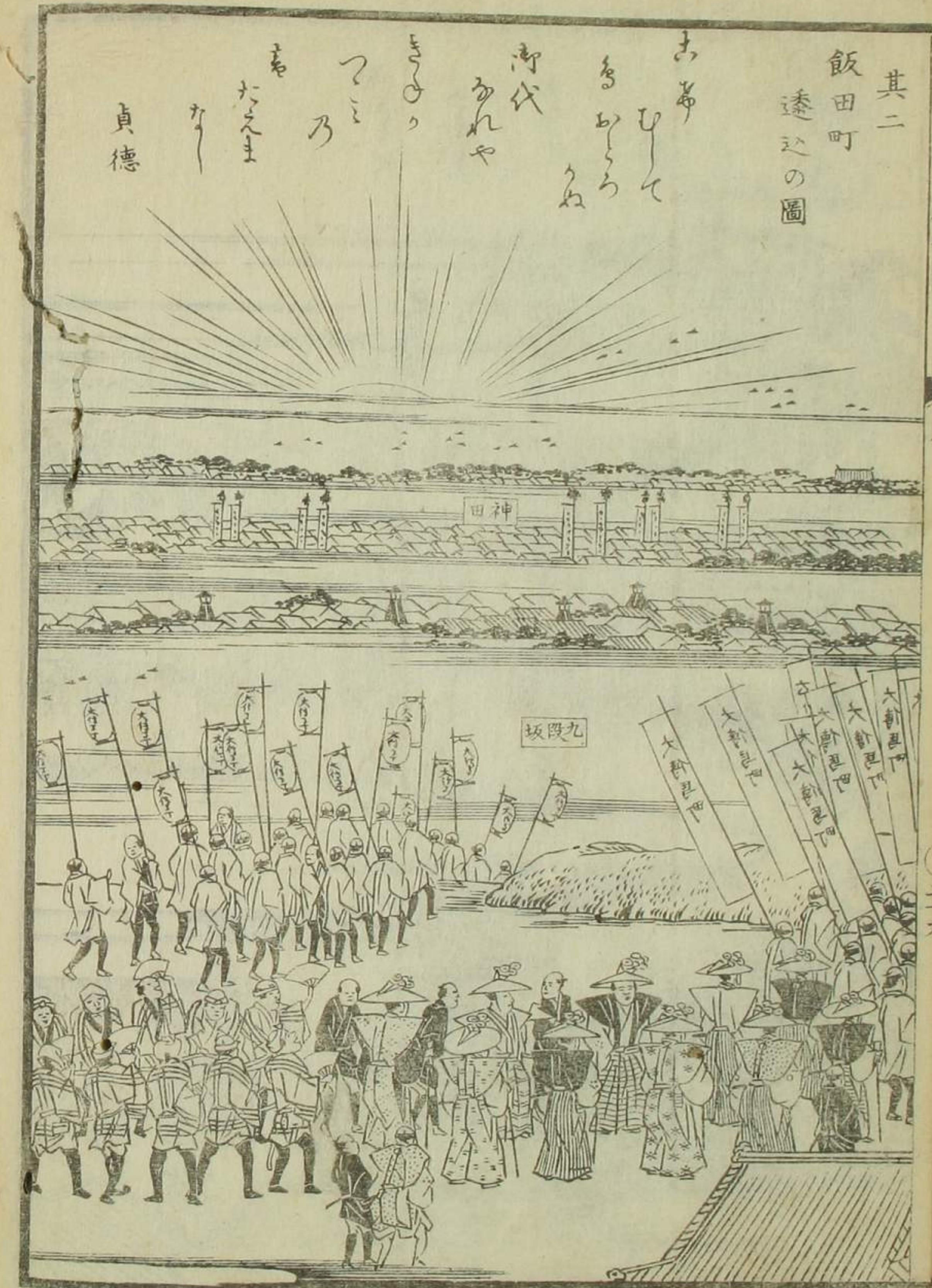
より本多通りへ出、あくまで湯の坂を下り、旅籠町までは、仲町とか駕原の弓張筋遠  
津門へ入る。弓張筋の内、一筋おき、須田町、渴町、より而て、内藤町、美太丘町、三丁目と

多<sup>アリ</sup>あり同幸丁同の河岸神田橋、堀築色木本ハクなど、不<sup>多</sup>家ツ多<sup>アリ</sup>少<sup>アリ</sup>而て復橋院原小例<sup>アリ</sup>を支<sup>シテ</sup>より飯田町魚板橋を渡り中坂を登り奥安寺門よりも曲輪内へ入る所也寺門

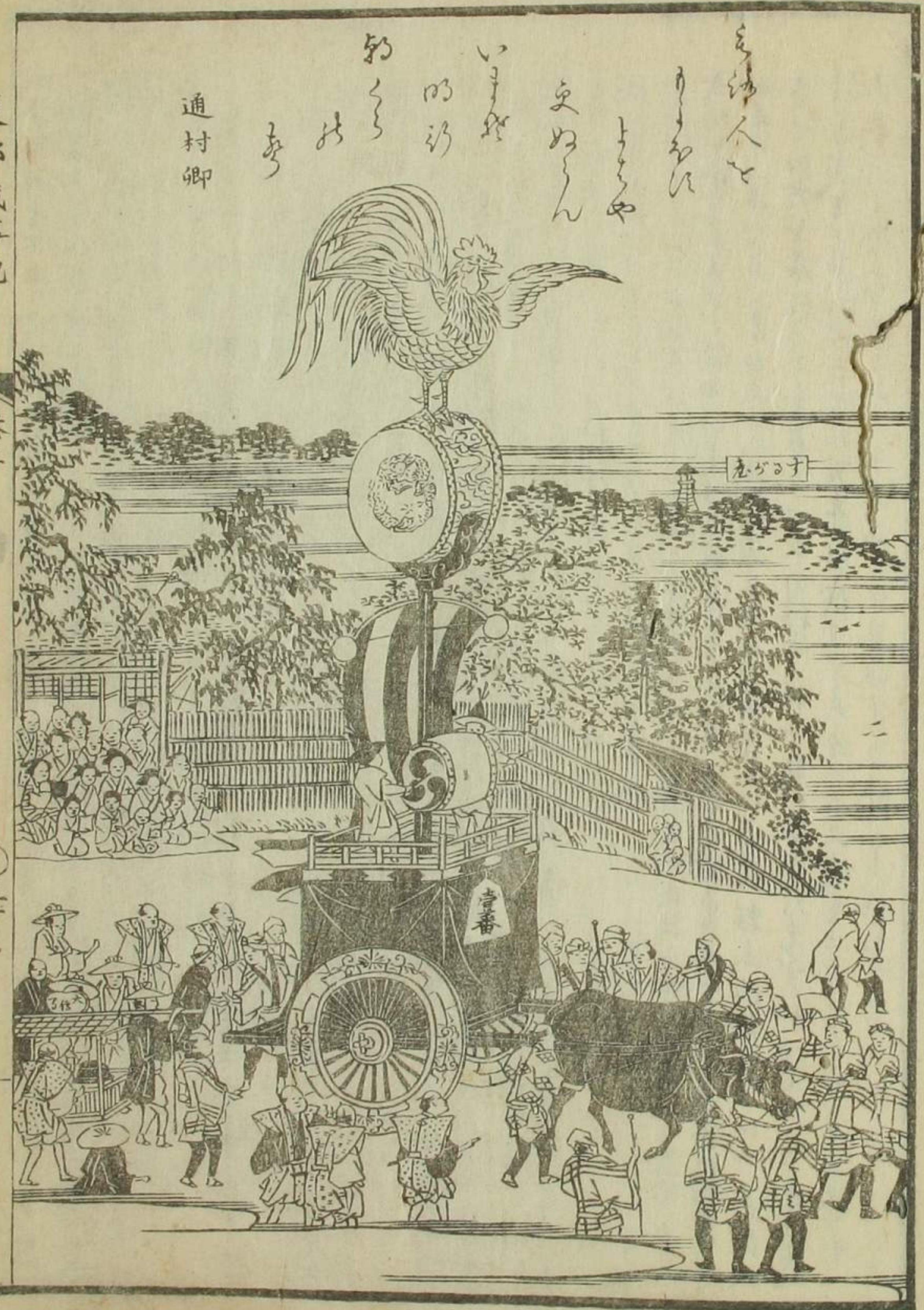
乱して退散を計るゝと、河内へ本町通り石町、猪蛇町、大曾根町、油町、小網町、小永町、油屋より、猪蛇町、行勢町、油屋より、日赤門、左近通り、至幸亭、日赤より



其二  
飯田町  
遠近の圖



貞徳



通村御

兼鄒藏書記

卷三

三

へ出宮町まで丁目よりを丁筋遠畠年橋と渡り湯濱の河岸より聖事地銀の坂とよろぎ  
へ還裏ありは社産子のあくよりお挑打とひー升の先あくまく波浪と伏事ひくも  
段々と神事のいきまつたる日と浮うむ  
國すき大名庭すきうみ、嵐雪「おもづき御湯の神田神まつま李」  
寛文二年壬寅九月江東吟藁 平岩仙桂作  
繁華男女集隨喜仰神田高下雕甍疎收排朱闌鮮擲錢強願福擎幣  
且求全聞説親王蹟嚴靈經幾年

○同社神車旅 今か一享保のあらまで、聖の年十六日又十八日無沙と成ハ日をま  
らばともよきび、觀世全春宮生令別にに度より出戸中核安列ありそぞ核とふ  
集ひーう同ーひより絶う

小象み代紀巻四云坂より東ニ因美ノ略 無事本社の東ハ深井作田の井と限らうされど、  
うちれハ神田の井の花宮又我朝は社始る由比神代ある。御神の所天は岩戸乃木  
少々々ハ百万社あるといひ朝食ぐ一神ふかと奉一よりお供えと始まうとふす  
能式三番としより出来うる。諸本達ハ天照大御神ニ萬神雅久ノ御古  
神事也、既じとよりより毎年九月十日神事無あり御神と上校修復堂御祭事  
の主主として祭の様ふましきを承て甲申の主小象を主氏銀誠と攻落ト上校を亡  
武川と落ちて是によつて申の奉神事無あり是主例よりと氏銀御祭事  
祭中一年をそと年日よとに神事無あり年の八月小象ねどく御東源氏の者ひりもほん  
下て江戸と居候とく三年よ一夏の神事無と勤め今はだえず下接按うにまあ吉松をま  
より富生をまへ廻りて凡百事程代へてあらうが又富生をまへむを十本支と計  
おまとつともひ遠うおまえをまへて享保より絶う

○神田彦祭カダヒル漏年多九の体とくから產子の町くうげ坐と号して新地村  
又種々の飾りはおひり十日より見物の神事とえまくを社事清多一又町之  
坐人形と飾りあり

○牛郎前王子権現御禮別處最緒ちせ卯巳未酉亥漏年ふり牛鷹の越緒ち  
新町の神旅而く神幸ひて今日神幸あり產子の町数多きうゆゑ二日之内の神事と  
波一からう同一日より波済のやか一歩一歩移り、安永八年より坐す

一番 本不花町 二番 同吉田町 三番 同吉田町 四番 同吉田町 五番  
同船引町 六番 南本不元町 七番 同横綱町 八番 同石原町 九番 同外洋町 十番 同  
荒井町 十番 南本不山町 小本不出村町 中ノ谷代堵町 十二番 南本不南陽町 小本不出村町 吉番  
小本不表町 カナギ十一番 同竹町 十三番 本不元町 同八軒町 ミラヒ十七番 同京原町 十八番 同尾町  
十九番 同横川町 カナギ北番 小橋代地町 カナギ六番 本不松金町 カナギ七番 同吉田町 カナギ八番 同吉田町  
廿番 外須磨村押上村 小橋村 以上二十一町三村也

○下谷金櫻村三鷦明神多礼 神事一基と法を神旅而く全般の多りふたり六月  
八村の祭漏月ハ町の祭なり○神事すと町と鷦明神事

○千住小橋系藤多明神多礼 アスカ別處神廟す ○寺鷦明神多  
天王の多殿之

○千住掃部島神多礼 水川明神多禮時今物行 カナギ二基と法を

○牛込篠去の神多礼 ツカト別處院子亥辰年申成漏年少り  
元坂田町八番社の產子ゆて申今縁入り

○音羽町八丁目中八幡宮祭禮 別當西院院神社ハ小日向の生去神中て  
殊の外甚振ひシ○子住二丁目冰川稻荷祭  
○平塚明神參拜  
○柏木村謹時神參拜  
○南木川神明宮參拜  
○城宮神  
○三田小山神明宮參拜  
○今戸八幡宮廿之神神事  
○柳原妙見宮開帳  
○新豊國安樂寺妙見宮内供奉卷陀羅尼修持  
○向金妙見宮星祭  
○山谷正法寺毘沙門參開帳子卷陀羅尼修持

十六日○饭食并明官事忙  
世

十一月十九日 金小堀  
より 金小堀

仲主翁東氏 今日多れの商日  
後りあはせ居奉り。ごめんづく

シヤウカ  
金昌院  
ふして奉幣清祓神事なり 境内にて云坐姜と售ふ事

ハ平窓も有本館ハ多れ少て人多く来る之の件は同窓多れ有本館の同窓也  
とつてもソラリ多れの事、彦子町、挑灯懺、多く出る彦子町と左の如く  
朴門町、宇田川町、紫井町、癪同町、源助町、浅松町四丁、芝塗町、令松十一町  
松本町二町、彰門番二丁、彰綱町一丁、和泉町、古手跡町、序門番二町、中つあ三町  
七軒町、芝三崎町、彰綱産町、善房町、梯田伎あ町、同之保町、同をち町、同景町  
築地同朋町、麻布彰綱町二丁、同綱代町、朴田三崎町、芝塗山町ホノ  
芝に三丁同右へ通はの産子あり、今山主の産子ともあります、或處を度い、あれは浦より芝  
に浦手少、あると下辺路へ芝切至、辺より東へ在、在芝三面の邊近彦子なり

○車尔抑上徒性多作的緊○手終う谷林の緊作生小川風  
○鳥易同申同是之一書  
林生経本文十首より

○ 楊陽嗣曰 神明宮禁經  
林生於後漢十日月より集結年一莖生全  
身生於南に府の林の宮也と世仰慕す也くの如

○ 汽車の宮御内幸  
同大泉院林家あり産子ハ海辺富士並町同に居る。門も同右  
同涉嘉町傳通院以富士あ丁以上十町ありむ。船宿とくら書の付縁は當社の文  
系保元文の近ハ隔年より多く後多れありあれをよ廉價をとりとてり。定例より  
坐り又坐一本ふ鑑をとて者者とも女の衣被と多びんぢもせばりとす。女乃  
縷革と革の下ふきとく竹杖のひとやくとみてつゝ車舟で歩ひたりあれをすに限ら  
白山氷川赤坂の源りあれの邊を因縁としてありたりとくら神船のあれ宮暦九月を絶てそれ故  
○ 駿河太田作官參今四月执行。○ 日吉大泉院聖天官林家(は千秋家)の内  
多れまくらく海一賽(アラシ)にて産子の者又へまふもうから

士の生る處人姿鮮やか達致をも余程の如きふく美徳を有する爲社に充満を

十七回  
林榮到塘沽奉福寺中寓處

- 涉糸は御相殿太く御神樂無乃○麻布一本松水川御神乐

○小日向より鴨冰川附作事れ御坐り御月輪○大森寺御神乐

○牛込の葉旨町南院毎天奉亥丑卯巳未酉年漏手少乃

○下谷通野町秋葉權現祭別當も少○涉糸樞も秋葉少乃

○今稻より大塚 蒲玉も 本津も七面宮御禮 故中說法聖十九日陀羅尼

○今稻より大塚 の酒 本津も七面宮御禮 修行鬼供奉少乃

十九日○牛込赤城明神祭酒 別當も覚も子寅辰午申戌の年漏年より也とぞ  
牛込の人形とくらゆ毎年くらゆ多され番組たの如く

同 安志也門<sup>アカキ</sup>五番 同青町 同 固袋町三番 同老湯も門あ平安義門<sup>アマニ</sup>四番 同母也町

同 安志也門<sup>アカキ</sup>六番 同<sup>アカキ</sup>葉旨町七番 同拂方町八番 同<sup>アカキ</sup>細工町九番 同天

林町十番 同牛里町同牛里町土番 同拔町十三番 同毎天町十四番 同<sup>アカキ</sup>佐藤町十五番 同<sup>アカキ</sup>千代町十六番 同<sup>アカキ</sup>千代町十七番 同<sup>アカキ</sup>千代町十八番 同<sup>アカキ</sup>千代町十九番

町十六十七番 同原町一丁目二丁目三丁目十九番 同改代町北番 同築地序町北一番 同入野町北二番

同牛里町三番 同<sup>アカキ</sup>場先序町北四番 同天祐院門<sup>アカキ</sup>五番 同改代町北六番 同<sup>アカキ</sup>覺もつあ以上  
女八丁より林寺一基別處家妻移列暗を。道筋ハ林坂の上をも町と練込平<sup>アラシ</sup>に支より  
高臺よ東へ林坂より経て坂上をも町東を古川町邊改代町華坂序町より有社の又をも町へ生ま  
少<sup>アカキ</sup>子橋田町下町越お庚田御靈根木町原町久保東町同桂もより金羽坂より  
市谷八幡宮あ左内坂武家地<sup>アカキ</sup>なる場を渡て先へ折り山林町右へ御靈町山佐士町山納町  
拂方町同牛里町南とせり元の山納町より出んす町橋も町よりをも町へ出先の西<sup>アカキ</sup>く  
終る以とあらず」と記す

○涉糸だんが幸新も柏原の林坂御帳子卷陀羅尼修行

○白うす之林坂水川夢れ別處報恩も○大官八幡宮林坂

○本木大峰村小木林福智院移<sup>アカキ</sup>夢れ○涉糸<sup>アカキ</sup>林坂<sup>アカキ</sup>權現あり

○川崎山主宮角力舞りあひ邊も九月十九日とみて吉陽の佳節とす

○七面宮祭禮 押上最教寺 深川津少<sup>アカキ</sup> 布<sup>アカキ</sup>同亮躬院 小卷陀羅尼

同暮里延命院 十八日の祝小卷陀羅尼 大窪法善も 本<sup>アカキ</sup>同廟十三日より  
通教説法あり

アカキ 芝金松因珠も 本<sup>アカキ</sup>卷<sup>アカキ</sup>大<sup>アカキ</sup> ○羽田辨財天坐化<sup>アカキ</sup>要<sup>アカキ</sup>とくの傳の事あり

女日○<sup>アカキ</sup>乳山壁天宮祭禮 例<sup>アカキ</sup>本<sup>アカキ</sup>院 今日壁天町同様町金<sup>アカキ</sup>少<sup>アカキ</sup>院<sup>アカキ</sup>

○涉糸荒ほ生お殿壁天宮坐○モ外<sup>アカキ</sup>壁天<sup>アカキ</sup>坐れあり

## ○萱場町薬師如来開帳○白金猿町稚子宮祭禮

別當宝塔も  
御車湯花典也

女一日○小石川向山權現祭禮  
神主牛井氏寛文のひより参れ始り少へ毎年  
子寅辰午申戌年隔年奉子の町より踊り拂り花火一あとまつり回一  
より中絶もされと祚安ハ子姫少歩て東詣群集の事若よシモソシ町く懺地灯おさ  
して女日より始り

小石川戸崎町 祥をま。門多法傳もつあ 森運すつあ坂下町 小石川柳町 同山寺除町 因幡を  
院表裏つあ同陸戸町 同白壁町 同麻坂町 同金松木戸町 駒込序町 丸山新町 淳心も  
門あ駒込追分町 同者店町 同九軒屋敷 駒込淡志町 同高林もあ 天保寺門前  
小石川櫻ヶ谷町 壱丁目二丁目 同原町 同桔谷町 南所町 小石川津田もつあ 同蓮花寺  
つあ 同小川屋敷 同白山前町等より出一付娶と出母一以ハあたま丁目より二丁目まで  
の町よりも生一乞り始り始一あとハ産子を向ひ

○根津權現祭禮 別當昌泉院神主牛井氏世よ富永幸と以富永のひよそも  
支九月廿一日駒込序町よりなりと出一是より隔日より同日より始くと清一牛井移也  
余せらまき山主の事の様よしとて同日牛井戸町より始くと清一牛井移也  
差廉とぞせーうと後後此は今ハあは辺より駒込近の事りとぞすり今日神主三基佛子改  
樹少とぞの通富永町追波一まわくは廿日より始ひて。西佳に年参りの唐紙並不  
筋木ハ當時用ひり、家ふ死主は同年街又商ひ、其賣付ハ曲亭漫筆と云う善哉あり

## ○青山原宿町慈時權現祭禮

別當淨性院 產子の町もふよりて出



一番 吉山お師院町 同 小原高町 二番 南原高町 三番 久保まち慈聖横町 四番 久保町表町  
 五番 久保序町 六番 宇人町 七番 沼川町 九番 岩松町 一町 十三番 みよち町 以上十一町なり

○下谷子東移篠井修禮 計泉ま枝花中一懺地灯ホ告白

○麻布祐土神明宮祭 別苗長泉も 今拝祈 ○角筈村十二面権現祭礼 本堂付

禱て十二そうとくふ

○法大師集 河修 雨新井その外二月の如一 ○谷中も庵抄田も今式子毛たるに

廿三日 ○源川猿江妙音も移篠井修禮 神事とはあへぬ

○谷中大田も庵ち移篠井内洋小巻陀羅尼修行美說法あり

○子住太橋向橋戸町修も移篠井寺 ○麻布六本木芋洗坂下移篠井修法

○今日より十一月廿八日まで涉系八引の町本法す總合より社より切多と即一十二月  
毎日よりあれどかほつ戸柱余よ法よりとひ火炎盃絶えとくらとく今日子巻陀羅尼

あり ○涉系七軒も町法表も總合修法正月八月の如一 ○御前あ油田家山中から  
法す瑜伽山持現幸れ今時日 ○麻布揚田巖山移篠井久保町震山移篠井象

○涉系報恩も報恩講引上金廿八日まで修祈 般鑿上人御恩の

廿四日 ○代々木八幡宮移篠井修禮 别苗 ○今時日近う森尼神祭 正月八月

○油系報恩も表あやて二十二軒勢の候接も ○赤坂野町も修る勢井用帳

廿五日 ○押と青賀井用帳十引經總車多几 ○難波若宮塔も子巻陀羅尼美說法

○法大師集 天満宮祭修持 四照も ○小石川京町天満宮供奉 ○麻布慶尾移篠井樂あり

○小石川躬法潭も圓光大師御忌法會廿四日より修祈 東詔

○楊弓絃改の懇會入用山同

廿六日 ○治谷宮益町 坂の御嶽山權現移篠井執事

○越町平河天満宮十八度供奉

○小石川傳通院開山忌今日用山當少して修祈 用山了番上人當之今教

○今日より廿八日迄目忌長泉律院佛名會 無教

廿七日 ○子込谷八幡宮移篠井修禮 別苗 ○詣訪谷村詣訪明神多几 亂山吉原も

○南小川妙山も仁王も移篠今明日拝祈 小巻陀羅尼音東

○戸越村八幡宮移篠井修禮 別苗也も尚社堵内の石より

廿八日 ○同忌不動も移篠 西月仲条清多一女七日廿八日の五日三日子群集を廿七日  
秋より本堂移りゆり法すうの事在西妹菊の花標法

## 景物

送りて行人の足とくも

○高田氷川社二十六座神乐○殉迎駕行も太山同本不動も御帳

○牛込系町報恩も不訪御帳○入谷教宝院鬼子母作小巻陀羅尼あり

○佃宿とりあり法會の牛宿一一向家かく西派なり今日清の内築塔奉教の如法あり

報恩

築經行あり

廿九日○澣谷氷川明神參禮お撲與行

川端

宝泉也

菊○立をよりに 菓鳴塗井辺桂木庭園中

寺勝村百花園

之外本不辺四客事と辺の桂木庭園中小まき一亩地ハ菊の莖故て名一とす。○文化乃未  
菓鳴の里小菊花もて人形を歎仰くきとかくさめの形と造り。又時行出で京府の  
まゆ日毎は群集してすうら湯肆茶店どうも深名もあり。向くねと縁ひ。○以父ととりふ  
はまくらめてあつき。も効きほのゆじて今、せきの菊とばかり。後二三年かくてあの夕泡  
こうされとたまの花壇。今ふうもくじて年毎小聲なり。

むくのじくりとふい。今は少く白き菊の輪少く黄金圓葉の如く。多くうきうきと白  
きとむきの菊とよてもやる。ハおれ時よりゆるうと。うちもまの眼ハ。高井戸の邊す。この  
邊又虎の名稱ありて夏日都下ふ也。

江戸歳事記卷之三畢

